



月刊 もぐら通信

Mole Communication Monthly Magazine

2023年2月1日 第123号 初版

www.abekobosplace.blogspot.jp

あなたへ：
迷う事のない迷路を通して
あなただけの番地に届きます

僕の大好きなリルケの詩 [Herbst : 秋]、

Die Blätter fallen, fallen wie von weit,
Als welke in den Himmeln ferne Gärten;
Sie fallen mit verneinender Gebärde.

(略)

(『中世筆宛書簡 第3信』：全集第1巻、73ページ)



Die Blätter fallen, fallen wie von weit, an
Himmeln ferne Gärten; sie fallen mit vern
Und in den Nächten fällt die schwere Erd
in die Einsamkeit. Wir alle fallen. Diese F
sieh dir andre an: es ist in allen. Und doch
dieses Fallen unendlich sanft in seine

(Rainer Maria Rilke)



depositphotos

Image ID: 258564658 www.depositphotos.com

www.abekobosplace.blogspot.jp



『S・カルマ氏の犯罪』の最後に登場する
非ユークリッド空間を映写する映写機

目次

- 1 目次…page 2
 - 2 記録&ニュース&掲示板…page 3
 - 3 巻頭詩（11）：自分の感受性ぐらい：茨木のり子…page 9
 - 4 『周辺飛行』論（34）：3。『周辺飛行』について（21）：「友達」の稽古に入って——
周辺飛行31：岩田英哉…page 10
 - 5 二十一世紀の日本文学のためのスケッチ・ブック（5）：塔の文学：4。安部公房の塔と埴谷
雄高の塔：岩田英哉…page 16
 - 6 サンチョ・パンサを求めて（11）：エリアス・カネッティ：岩田英哉…page 20
 - 7 糞尿と性愛の文学～生殖器・排泄器同一社会論仮説～（1）：岩田英哉…page 24
 - 8 ネット・メディア論（12）：7。政治形態と自由：岩田英哉…page 31
 - 9 縄文紀元論：Topologyで日本人を読み解く（12）：5.16.3「聞こし召す」前に「しろし
召す」がある/（3）第三段：大倭日高見国は大祓の結果どうなつたか：待て次号：岩田英哉…
page 37
 - 10 Topologyで日本の文化を解説する「内なる境界」シリーズ（12）：まて次号：岩田英
哉…page 39
 - 11 編集後記…page 42
- ・連載物・単発物次回以降予定一覧…page 40
- ・編集方針…page 41

PDFの検索フィールドにページ数を入力して検索すると、恰もスバル運動具店で買ったジャンプ・シューズを履いたかのように、あなたは『密会』の主人公となって、そのページにジャンプします。そこであなたが迷い込んで見るのはカーニヴァルの前夜祭。

ニュース&記録&掲示板

The best tweets of the month



該当なし。どうしたコーボーズ。



該当なし。どうしたコーボーズ。

The worst tweet of the month

空クジラ@ZK987654・Sep 29

僕、安部公房が凄く嫌いなんです。砂の女とか壁くらいは知っておかなきゃまずいな、って思って読みましたが、村上春樹のプロトタイプという印象を彷彿とさせてしまって、正直なところあれを傑作と言えてしまえる人々の価値観に共感できない。

観に共感できない
正直なところあれを傑作と言えてしまえる人々の価値観
てあるのである。三島についてはいふまでもないが
[鑑美子] 馬鹿だな、村上春樹が安部公房の真似をし

来月の上演

ケラリーノ・サンドロヴィッチ@kerasand

気の早い話ですが、劇場での配布物に情報解禁されてるのでこちらにも。
ケムリ研究室の次回公演は来年夏。『砂の女』(原作:安部公房)であります。



今月の上演

もりさん@818Mini1000・Sep 27

鳥の演劇祭13

安部公房原作「友達」

作：安部公房 演出：中島諒人 出演：齊藤頼陽 中川玲奈 赤羽三郎 高橋等 中垣直久 安田茉耶 後藤詩織 大川潤子 山本芳郎 (劇団山の手事情社) ホリユウキ

(DULL-COLORED POP) 齋藤友香莉 : https://www.youtube.com/watch?time_continue=15&v=LUVQ9sKWYK4&feature=emb_logo



鳥の劇場
「友達」

19:00 開演です。

配信開始まで今しばらくお待ちください。

伊藤海@Vaga8onds_kai-Sep 28

andante第一回公演

『友達』

原作：安部公房（新潮文庫『友達・棒になった男』所収）

演出：伊藤海（FLAG）

音楽：服部響（HMS）

2020年10月17日（土）～18日（日）

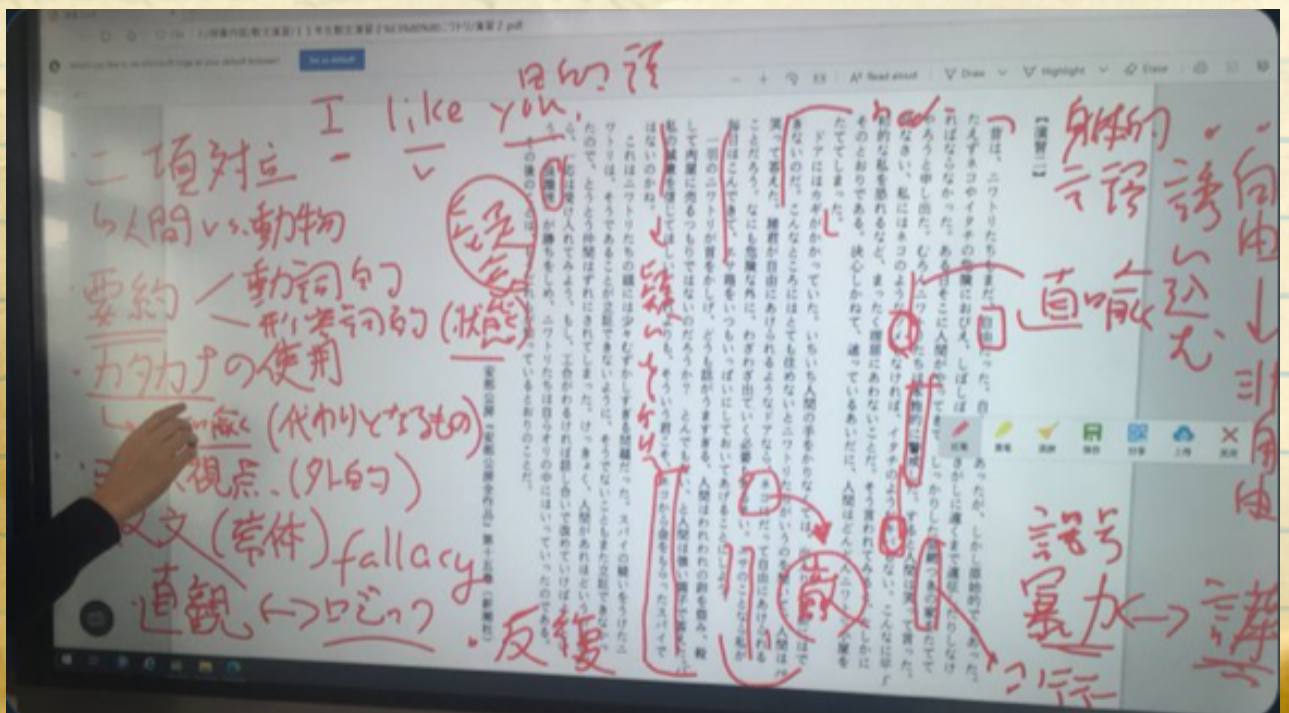
宮崎市民プラザ オルブライトホール



今月の良識派

国際バカロレアスクール「文学のトリセツ」（新刊）@IBDPMasahiro-Sep 14

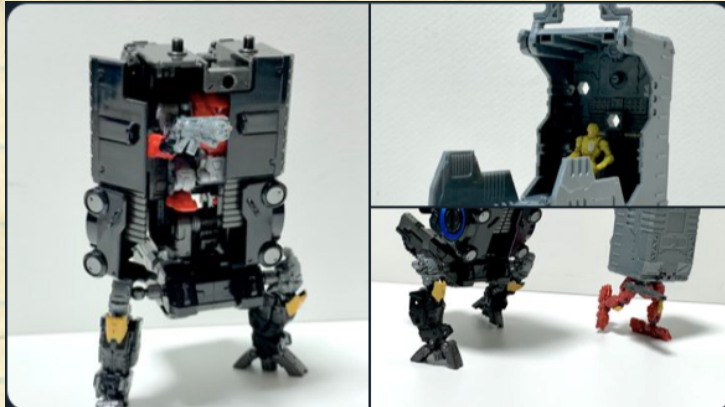
今回は、安部公房の小品「良識派」を分析しました。物語で展開される本能と理性の二項対立や、反復される行為のパターン、登場人物の属性変化などを通して、現代社会の問題点を作者がどのように寓話化しているのか、その手法を考察することができました！



今月の箱男

ATELIER ULLO アトリエ ウロ@ATELIER_ULLO・Aug 23

安部公房にどハマりしてた時期があったのをふと思い出したのでダイアクロンで箱男をつくってみた



今月の他人の顔

八咫鳥@calimerowhite2・Sep 2

The Face of Another 1966

他人の顔

原作 安部公房 Kōbō Abe

音楽 武満徹 Toru Takemitsu

<https://youtube.com/watch?v=Q5y1h8F3eL8...>



今月の燃えつきた地図

八咫鳥@calimerowhite2・Sep 5

The Man Without a Map (1968)

燃えつきた地図

Hiroshi Teshigahara

原作 安部公房 Kōbō Abe

音楽 武満徹 Toru Takemitsu

<https://youtube.com/watch?v=ocib6GxvK7c>



今月の日本共産党批判

Sato@leopardbox・Sep 9

スターリンに迫害されたシヨスタコーヴィチにシンパシーを寄せて全体主義を憎むなら、党中央を批判した中野重治、野間宏、安部公房らの文人を党から除名した自分達の歴史をちゃんと振り返った方がいいぞ。高度なギャグなら笑っておこう、ホホホ。



志位和夫
@shiikazuo

シヨスタコーヴィチも話題に。私は、彼がスターリンによって命を奪われる寸前の迫害を受けたこと、それに屈せず交響曲4番、バイオリン協奏曲1番、ラヨークなどの傑作を、未来の聴衆のために残したこと、日本共産党はこうした全体主義を決して再現させてはならないという立場であると話しました。

今月のEMS Synths AKS

ホッタタカシ@t_hotta-Sep 20

安部公房が愛用したシンセサイザーはEMSの「Synthi AKS」。ブリーフケースに収納して持ち運べるサイズの物です。https://youtube.com/watch?v=2RttZ3J5_YE

積読荘の住人@tsundokulib-Sep 20

安部公房が買ったっていうシンセサイザーもこのモーグみたいなデカさだったのかなあ

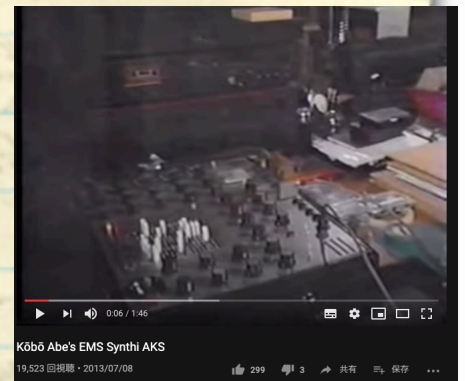
今月の絶望と希望

Gaku Kiishi / Asahi / macaroom@asahisism8-Aug 21

ちなみに明日のない希望というのは安部公房からの引用です
Quote Tweet

エマル@emaru_macaroom-Aug 20

macaroomの新曲になる予定のアサヒの新しいデモを聴いた。とても良い。アサヒの曲をうたってきた長いけど、デモを聴いては衝撃を受けてきたなと思ひ出す。思いもよらないメロディラインだなんて何回も思ってきた。あと歌詞。私のうたが初めて入ったアサヒの曲は「明日のない希望」というタイトルです。



今月の小日向台

お散歩マスター@WalkAroundTokyo-Sep 17

小日向(こひなた)

うららかな響き。

小日向台地の南側。

南に神田川、北にはかつて小石川が流れた坂の町。

石川啄木、安部公房、横溝正史が暮らした。

地名の由来は昔の領主にちなむとも。

ここは台地の南面で日当たりがよい。

綺麗な地名だ。

地元の人「こひなた」と発音する。なお良い。



今月の砂の女

八咫鳥@calimerowhite2-Sep 2

砂の女 Woman in the Dunes

原作 安部公房 Kōbō Abe

音楽 武満徹 Toru Takemitsu

<https://youtube.com/watch?v=zFg6NVRrk4>



マカ■ニ@lifeHEY_BOT・Sep 26

ALTER EGOのスピノフアプリ-安部公房「砂の女」を参考文献にしてるの選書にセンスを感じる



今月の安部公房全集未収録作品

ホッタタカシ@t_hotta・Sep 28

安部公房の子供向け作品といえば、「たのしい三年生」に載った『アジキリ博士のこまったはつめい』は全集未収録。馬場のぼるの挿絵がかわいい。だいたい「オバケ」や「魔法」や「発明品」が中心になるのが彼の作風で、藤子不二雄などにも通じる味。 [編集子] 次号以降に掲載します



今月の壁

澤俊之@NovelJam2019'グランプリ & 内藤みか賞

@Goriath_Publish・Sep 25

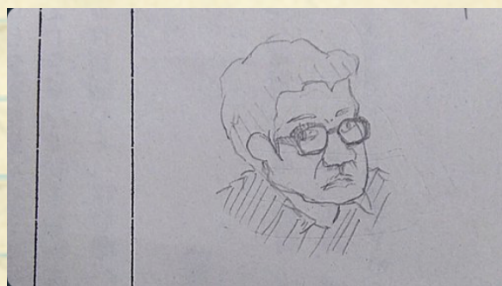
安部公房再読



今月の安部公房の似顔絵

み@corn__butter・Sep 26

国語のポップアップ書く課題で安部公房書いたら10点満点だった(^^)



今月の安部公房論

詩的文学論文bot@shiteki_bungaku・3h

所有の始原：安部公房「赤い繭」論

中野和典

<https://ci.nii.ac.jp/naid/110007506049>

今月の中国語版安部公房と三島由紀夫

初志 | 中国語と読書 (充電中) @wuwangchuzhi・Sep 27

そういえば今日は台湾から2冊届きました。大陸で翻訳がしばらく出てなかった安部公房『燃えつきた地図』と、大陸では過激な部分削除されてる三島由紀夫『不道德教育講座』の翻訳版です。どちらも最近の翻訳状況は変わってるかもですが、なんとなく純文学は繁体字版もほしいんですよね(♡)



今月の三島由紀夫と安部公房

フィーゴの音楽日記：「昨日の読売新聞の朝刊に、作家の安部公房と三島由紀夫の作品を比べる記事が掲載されました（写真）。私は三島由紀夫の作品を数作品読んだことがある限りで、安部公房と以下の記事の大半は知らない内容でした。面白そうなので、引きこもり期間中に、作品を読んでみようと思います。日本人の教養としても大切であり、日本の文学作品の歴史を知る上でも大切だと思います。以下の記事に書かれている投票者の感想は参考になると思いました。詳細は以下に示す通りです。」：<https://ameblo.jp/figo40/entry-12607605354.html>

The screenshot shows a newspaper article with the following sections:

- どっち派?** (Which side?) - A poll section asking readers to choose between Shizuma Yukio and Abe Kobo.
- 三島由紀夫** (Shizuma Yukio) - A profile section with a photo and text.
- 安部公房** (Abe Kobo) - A profile section with a photo and text.
- 美学表す美しい文体** (Aesthetics expressed in beautiful prose) - A section discussing the literary styles of both authors.
- 寓意で描く人間存在** (Human existence depicted with allegory) - A section discussing the allegorical nature of their works.
- 朝鮮戦争 決死の家族救出** (Korean War: A desperate family rescue) - A section about a specific work by Shizuma Yukio.
- よみうり堂から** (From Yomiyuridō) - A section with reader comments and a book recommendation for 'Sea of Mountains'.

今月の壁厚き部屋

ホッタタカシ@t_hotta.14h

脚本・安部公房。1953年に完成しながら、松竹から公開中止を言い渡され、3年後にやっと陽の目を見た問題作です。

Quote Tweet

北千住シネマブルースタジオ@ACT_Cinema.19h

【北千住シネマブルースタジオ上映情報】

明日9月30日(水)より 小林正樹監督「壁あつき部屋」
 35mmフィルム上映です！1日3回(13:00/16:00/19:00) 各回20分前開場(チケット販売も同時刻です。)

<http://art-center.jp/tokyo/bluestudio/schedule.html>



巻頭詩

(11)

自分の感受性ぐらい

茨木のり子

ばさばさに乾いてゆく心を
ひとのせいにはするな
みずから水やりを怠っておいて


気難しくなってきたのを
友人のせいにはするな
しなやかさを失ったのはどちらなのか

苛立つのを
近親のせいにするな
なにもかも下手だったのはわたくし

初心消えかかるのを
暮らしのせいにはするな
そもそもが ひよわな志にすぎなかった

駄目なことの一切を
時代のせいにはするな
わずかに光る尊厳の放棄

自分の感受性ぐらい
自分で守れ
ばかものよ



『周辺飛行』論

(32)

3. 『周辺飛行』について (21)

「友達」の稽古に入って——周辺飛行 31

岩田英哉

これは題名通りに、この時上演する予定の戯曲『友達』のための稽古を役者としてみて、安部公房の気づいたことを書きしるした「周辺飛行」です。

この本文を読むと、一体安部公房は何を論じているかと云へば、それは、「家族」と「ほほえみ」の研究と呼ぶべき研究であつて、次の三つの段に分かれてゐます。

1. 前論：作者による役者への観察と観察結果：俳優の演技の質の変化について：役者達の暴力的演技の増加
2. 本論：作者による演出と演技の指導：「家族」と「ほほえみ」の関係を体得して「同調圧力」を婚約中の青年である主人公に押しつけ最後には殺してしまふ演技をすること
3. 後論：『友達』上演の舞台の持つ観客に対する効果について

「同調圧力」と入れたのは私の言葉であつて、安部公房の言葉ではないが、しかし、今の時勢に誠に適つた言葉であり、「同調圧力」といふ一点に於いても、依然として今も生きてゐる此の有名な戯曲である。要するに、この「同調圧力」の完成が、「家族」即ち赤の他人の集まりである偽家族全員による、「偽善的演技」にはよらない「ほほえみ」によつて若者を殺す結末に至ることは、読者ご存じの通りです。この主題は依然として現代的であり、場合によつては時局的ですらあり得る。論は、前論・本論・後論の三つに分かれてゐる。

1. 前論：作者による役者への観察と観察結果：俳優の演技の質の変化について：役者達の暴力的演技の増加

下記の本論で作者の云ふ構図を最初に理解の利便のために提示すると、安部公房の論理では、この若者と疑似家族の関係は次のやうな関係にあります。これが舞台設定です。異端と正統は読者周知の安部公房用語ですので、余計な註釈は省きます〔註1〕。

- (1) 若者：異端
- (2) 疑似家族：正統

〔註1〕

評論集『内なる辺境』（1971年刊。中央公論社）に所収の次の三篇の作品が異端と正統について論じた作品です。

- (1) ミリタリィ・ルック (全集第22巻、128ページ)
- (2) 異端のパスポート (全集第22巻、139ページ)
- (3) 内なる辺境 (全集第22巻、205ページ)

さうして、主人公に対して圧倒的に数の多い疑似家族（9人家族である）が、異端である若者を最後には殺すに至る。何故ならば、作者曰く「異端に対しては、正統以上の暴力はありえないのだから。」

上記の若者と疑似家族（安部公房の好んだ用字で贗家族と呼んでも良い）の関係を寓話とすることは、世界中で土地土地国々の事情に応じて解釈されてみて、それはそれで結構なことであるが、ここでは寓話とは私は解釈せず（何故なら本来安部公房の世界は寓話では全くなく、象徴の世界であるから）、安部公房の言葉を事実として、それ以上でも其れ以下でもない物事自体のこととして理解します。これほど徹底的に散文的でありながら、それ故に詩的な科白を戯曲を読んで味ほうことは、三島由紀夫の同作品に対する称賛の言葉を引用するまでもなく、贅沢な楽しみです。

俳優達のほとんどは「家族」の一員としての役割を演ずるので、多数の集団が一人の孤独な若者に対する暴力的な演技の過剰に傾くといふ「今回の稽古でみられる「家族」グループのエスカレートぶりには、そうした一般論だけでは説明しきれないものがあるように思う。」と作者は言ひ、続けて曰く「「おそらく、この「友達」という戯曲の構造自体と関係があるにちがいない」と作者のいふ「侵入する「家族」と、侵入される「男」との関係の、複雑でつかみにくい重層性が、「家族」たちをひどい相互不信に追いやっているような気がしてならないのである。」

演技の上であれ、「演技する相手を信じられなければ、自分も信じられないという」心理状態に役者達は陥つたのです。即ち、主客の關係に於いて、役者同士で「すべての行為が、同時に行為されるという受け身な要素を内包してゐる」（原文は傍線は傍点）ことが原因で起きる此の、弱者である若者一人に集中し、また「家族」の一員同士間にあつてさへも暴力的で攻撃的である態度を「ヒステリー状態」と安部公房は呼んでゐる。そして、役者達の変身と成長の階梯をステップと呼んで、「オタマジャクシが蛙に変態して、水から空気というまったく異質の相へ移行する時のように、欠かすことの出来ない一つのステップかもしれないのだ」と考へる。この変形の一つである変態を、安部公房はよく脱皮と呼んでゐるのは、これも読者ご存知の通りです

最初のステップはオタマジャクシの段階、第二のステップは蛙の段階。

この最初のステップは、「行為されることによってしか行為できない、という不自由な拘束状態から、なんとかしようとするあがきがヒステリーの原因なのであり、責任を他

に転嫁しようとして、攻撃的になってみたり、ふて腐れてみたりするわけだ。拘束から自由になるためには、他の俳優を屈服させるか、無視してしまうのが一番だろう。」これが第一のステップ。これを克服したのが第二のステップ。

これを安部公房は「これからの一か月を、もっぱら「家族」の研究に集中してみるつもりである。」と言つてゐる。さうして、この間、実際にさうしたのでありませう。さうでなければ当時の上演には至らない。

さて、第二ステップで役者達が蛙に変態するために、安部公房の要求することが安部公房らしいことに、「ほほえみ」の演技なのです。

2. 本論：作者による演出と演技の指導：「家族」と「ほほえみ」の関係を体得して「同調圧力」を婚約中の青年である主人公に押しつける演技すること

「ぼくが「家族」グループに最初に注文したのは、「ほほえみ」の表現を完全に身につけることだった。筋の展開が正確になるにつれて、「ほほえみ」はしだいに上手な作り笑いに固定しはじめた。偽善的演技は、そのまま偽悪的表現に結びつく。この家族を暴力団の単なるパロディでなくするためには、もういちど最初の「ほほえみ」に立ち戻ってみる必要がありさうだ。」といふ作者の言から更に次の整理をする。

- (1) 若者：異端
- (2) 疑似家族：正統：偽善的演技＝偽悪的表現

この「偽善的演技＝偽悪的表現」の典型例として安部公房の挙げるのは、これは誠に私も納得であります、「たとえば、「銀行」や「宗教団体」や「分譲住宅」の商業的に登場してくる、ほほえみ家族（原文傍線は傍点）。」

これらの団体に「」がついてゐるのは、皆これらもまた世にある偽善的＝偽悪的な「ほほえみ家族」であり、従ひ贗家族であるといふ意味です。

「あの写真やポスターを見て、薄気味悪いと感じるのは、やはり少数派なのだろう」と続くのですが、これは日頃私も銀行に行くたびに気持ち悪いと思ひ、役者といふのはこんな笑顔を金のための演技とはいへよくも平気でできるものだ、凄いなあと感心半ばで薄気味悪く思ふので、これは私のみならず、私を含め間違ひなく「少数派」である安部公房の読者に共通の特徴ではないかと思はれる。そして、多分、この「ほほえみ」の感覚的理解の共有に於いて読者の国籍は問はないのではないであらうか。「大多数があほほえみを、ほほえましく思わないとすれば、あんな商業的が成り立つわけがない」からである。類似の商業的やポスターは外国でもよく見ることができる。

さて、問題の論点はここからである。このやうな少数者に甘んじてゐる読者がゐたら、そ

れこそ安部公房の論理を理解し損なふからです。安部公房は正統と異端を、正しさまたは正義の問題とは全く切り離して考へてゐるからです。正義と云へば、そのまま法律の問題に直結してゐる。何故なら、法律とは国民の大多数の正義の実現のために公布されるのであり、それは正義が社会に遍く公平・公正に実現することを意図して制定されるものだからです。そして当然に少数者として其の法網から適用されずに漏れる人間達も必然的に生まれる。さて、ここで、少数者であることは、そのまま異端にはならないといふのが安部公房の論旨なのです。読者の中にも、通俗的に、少数者が異端者だと誤解してゐる読者がゐやしないか。我が胸中に自問自答してご覧。

この少数者と正統・異端の問題は、21世紀の今も欧米白人種キリスト教圏を中心に依然として20世紀から引き続き世界を騒然といよいよさせてゐる問題になつてゐる。その多くが少数者を正統と認めよと、民主主義の原理に背いて主張する輩であると傍観されます。安部公房の論理は超越論ですから、二項対立ではない。異端でもなく正統でもない第三者が本当の（安部公房が特定に讃嘆した場合のみに「純粋な」と呼ぶことのある）第三者で（例：ナチスの純粋制服、バッハの純粋音楽等々）、異端の名で呼ぶに値し、従ひ正統もまた、多数派の有無を問はずに、正統性を疑はれ得る第三者になるのです。この世界が汎神論的な存在の世界、超越論の世界です。安部公房の言葉にもう少し耳を傾けませう。これは此のまま、日本人の暗黙に好む「空気」に関する分析になつてゐる。あなたもまた、この空気なるものを吸引して、その色に染まつてゐやしないか？

この「正統」の暗黙のうちに他者に強制する空気を告発しなければならないと安部公房は考へてゐる。この態度が、異端と正統の間に二項対立を否定して画然として引かれる動的な、現実の努力の絶えず力関係に押され押し戻されして動いてゐる曲線的な、見えざる個人の意志によつて引かれ続ける一線なのです。

「わが「家族」たちに求められるのも、そうした「ほほえみ」なのである。人畜無害のレッテルを貼られ、化物じみた浸透力を持ち、大手をふって世間をのし歩く。誰からも咎められず、白眼視する者を逆に異端として告発し、世間もけっしてさからわない。犯罪者どころか、この家族は、正統中の正統であるべきなのだ。劇中、登場人物の一人が言うように、「さからいさえしなければ、私たちなんか、ただの世間にしかすぎなかった」のであり、侵入された男がついにさからいきれなかったのも、まさにその正統性のためだったのだから。」その次の文章を先取りして若者の異端性についても書き込むと、下記の整理が成り立つ。

（1）若者：異端

- ①「異端をただされるとすれば、むしろ「男」の側だろう。」（安部公房らしい論理）
- ②被害者としての正統性によつては（これは法律上の告発理由である）若者は「家族」を告発できないからだと云ふ。従ひ、

③安部公房の主張する告発理由は、法律によるものではなく、第三項の根拠を求めることによつて可能な告発であるといふことになります。

④法律でなければ、いふまでもなく人間の道徳に基礎を置いた告発であり、同時に超越論による（社会規範として正義の公正な実現を図る法律によるものではない）告発だといふことです。従ひ、

⑤この告発は、国家と国境に無関係な（国家の制定する法律に無関係な）辺境を超えて通用するパスポートであり、これを安部公房は「異端のパスポート」と呼ぶのです。これはどこにも地上には存在せず、このパスポートの交付場所と交付時間を予め広告する広告が掲載されるとしたら「明日の新聞」にしか掲載されない「異端のパスポート」です。即ち、

⑥「「男」が「家族」を告発できるのは、その異端性のためであつて、被害者としての正統性のためではないのである。」と安部公房がいふのは、上記③から⑤の理由によるのです。

（2）疑似家族：正統

- ①「化物じみた浸透力をもち」、
- ②「大手をふって世間をのし歩く。」
- ③「誰からも咎められず」、
- ④「白眼視する者を逆に異端として告発し」、
- ⑤「世間もけっしてさからわない。」

「「男」が「家族」を告発できるのは、その異端性のためであつて、被害者としての正統性のためではないのである」とすれば、「それは不可能な告発だ。もともと勝目のない告発だ。というより、そんな告発を受付けてくれる機関も、窓口も、この世間にはまだ存在していないというべきかもしれない」のは当然の理でありませう。

そして、ここからの結論が安部公房の面目躍如たる論旨なのですが、

異端たる被害者からみれば、「そう、わが家族たちは、絶対に告発することも拒絶することも出来ない、厚い「ほほえみ」の甲羅で守られ保護されているのである。それ以上の暴力はいらない。異端に対しては、正統以上の暴力はありえないのだから。」

といふ結論に到れば、結局これは私たちの日常生活の姿であるといふことに立ち戻るのです。そして、この普段の「厚い「ほほえみ」の甲羅で守られ保護されている」大多数の者たちの正統性を告発する根拠が大事だといふ。「問題は告発の根拠だ。「家族」を告発すべき罪はなんなのか。彼等の不法な侵入に対してでもなければ、暴力に対してでもなく、むしろ彼等の無罪——正統性——をこそ告発しなければならないのである。告発不可能である点を、あえて告発しなければならないのである。」

といふ此の主張を読み理解をすると、見えない透明な鉄で世間も世界も裁断して全く新しい意匠（デザイン）の服を仕立てる安部公房、また見えない糸で人間の隙間といふ隙間を、事物の隙間といふ隙間を縫ひ通して一筆書きで、即ちトポロジーで変形して全くの新世界を創造する安部公房といふ人間の姿が彷彿とします。

さて、役者達に課せられた課題は、かくして、「むつかしいのは、その説得性だ。告発の余地がない正統な存在として「家族」を表現し、しかもそれを告発する理由にしなければならない。有罪をあばくのではなく、無罪を示すことによって、逆にそれを求刑の理由にしなければならないのである。」とすれば、一体このやうな訓練を受けた役者達の舞台は、「偽善的演技＝偽悪的表現」を避けて、一体如何なる効果を有する舞台となつたか。

3。後論：『友達』上演の舞台の持つ観客に対する効果について

いふまでもなく、「その「ほほえみ」が実現したとき、陰画（ネガ）にすぎなかった異端者の悲鳴が、観客という印画紙に実像を結ぶのだ。そして舞台そのものが、観客自身の内的告発になる。」

この「周辺飛行」を読んだ今となつては、これからどんな劇団がどのやうに舞台をつくらうとも、私たち観客の絶対的な評価の規準・規矩・クライテリアは、このやうな効果を私たちに及ぼすほどの舞台であつたかどうか、そして其の判定は役者達の「ほほえみ」を見れば容易に判定が可能であるといふことになつて、読者たる私たちには容易で有り難い道標べであります。さて、舞台監督と俳優達にとつては、以上の安部公房の超越論の理解を求められる上での「ほほえみ」を微笑まねばならぬとは。『友達』の上演の減少しないことを祈ります。

この、ブレヒトのでは全然ない、安部公房流の「異化効果」と呼んでよいトポロジカル（位相幾何学的）な効果は何かと云へば、写真の譬喩（ひゆ）で説明を結んでゐるところから、陰画を観客一人一人の胸の印画紙に焼き付けて「無罪であるが故の正統性の告発」といふ主題の胸中再生を媒介する現像液が、舞台効果であるといふことになりませう。

さて、劇場を出た後の観客一人一人が、果たして日常の生活の中で、そのままS・カルマ氏のやうな胸に舞台といふ虚構たるしかし其れ故に真実である虚像を抱いて生きることの出来る無名の人となり得るかどうか、これは、このエッセイの書かれた1974年5月1日の話ではなく、やはり21世紀の只今この時この場所での話です。とすれば、初期安部公房の傑作短編の一つ『デンドロカカリヤ』の主人公コモン君の経験したやうに、私たちの生活してゐる地軸は絶えず時間の中を移動し続けてゐるのではないのだろうか？さうして、ガリレオの地動説を信じてゐるくせに、自分の天動説を忘れるほどに盲信してゐるのではないのだろうか？

二十一世紀の日本文学のためのスケッチ・ブック

(6)

塔の文学

目次

塔の文学

1. 森鷗外の塔と夏目漱石の塔
2. 江藤淳の塔と三島由紀夫の塔
3. 三島由紀夫の塔と安部公房の塔
4. 安部公房の塔と埴谷雄高の塔
5. 小林秀雄の塔と安部公房の塔
6. 夏目漱石の塔 (F+f) と安部公房の塔 (F×f)

4. 安部公房の塔と埴谷雄高の塔

安部公房の発見者、存在論の目利き、埴谷雄高の塔を論じなければならないことに、やはり思ひ至りましたので、ここで埴谷雄高の塔について論じます。〔註1〕

〔註1〕

安部公房と埴谷雄高の関係については『埴谷雄高『安部公房のこと』解題』（もぐら通信第51号）にて論じました。

埴谷雄高の塔は一生涯をかけて書き継いだ代表作『死霊』第一章の次の冒頭に立つてゐる。「××癡狂院」の屋根に立つ塔です。この小説の舞台は日本であるが、しかし具体的な地名などなく、また精神病院の固有の名前も呼ぶには当たらず、時代も不定といふ、誠に存在論を語るにふさはしい舞台設定です。無名の場所に有名の人物たちが生きてゐる。この舞台の幕開きの冒頭に、無時間の世界の象徴である十二の動物の絵をあしらつた位相の塔は立つてゐる。朱夏に話が始まるのは、作者に青春があつたからであらうか、それとも逆になかつたからであらうか。

「最近の記録には嘗て存在しなかつたと云われるほどの激しい、不気味な暑気がつづき、そのため、自然的にも社会的にも不吉な事件が相次いで起つた或る夏も終りの或る曇つた、蒸暑い日の午前、××癡狂院古風な正門を、一人の痩せぎすな長身の青年が通り過ぎた。

青年は、廣い柱廊風な玄関の敷石を昇りかけて、ふと立ち止まつた。人影もなく静謐な寂寥たる構内へ澄んだ響きをたてて、高い塔の頂上にある古風な大時計が時を打ちはじめた。青年は凝つと塔を眺めあげた。その大時計はかなり風変わりなものであつた。石造りの四角な枠に囲まれた大時計の文字盤には、ラテン数字でなく、一種の繪模様が描かれていた。注意深く観察してみるならば、それは東洋に於ける優れた時の象徴——十二支の形をとつてい

ることが明らかになった。青年は暫くその異風な大時計を眺めたのち、玄関から廊下へとすり抜けて行つた。」

この「時の象徴」の中で話は進行する。安部公房の世界に共通のことは、この話もまた幕の開く前に、「だが、まだ何事も始まつていない」といふことです。〔註2〕

〔註2〕

この作品の「自序」の最後で作者は次のやうに述べてゐる：

「私が本巻を序曲と呼ぶ理由は、てんやわんやの息切れする能力をもつてとにかく三つの主導音をここに敲つたというだけの理由である。第一から第三主題の展開へいたるまで。だが、まだ何事もはじまつていないのである。この作品が扱うのは五日間の出来事であるが、だらだらと長いスタイルで書きつづけているため、この序曲を終つてようやく第一日目の夕方まで達したに過ぎない。徹夜など氣にもかけず飛びまわりたがる作中人物達の氣配を窺い看るとき、前途お遙かさにいささか恐慌の情を禁じ得ない。」

（講談社『埴谷雄高全集 3』所収「死霊」14ページ）

「時の象徴」を、安部公房は「時間の空間化」と呼んでゐる。従ひ、この埴谷雄高のいふ象徴とは、安部公房のいふ「空間化された時間の影」〔註3〕といふことに当たる。即ち、「時の象徴」とは、眼に見えないほどの速度で変化する「いつの間にか」「ふと気がつけば」起きてしまつてゐる、従ひ超越論的な空間的な変化のことである。従ひ「だが、まだ何事も始まつていない」のです。それ故に、この小説に登場する人物たちは皆人間の名前で呼ばれてゐるが、実は実体はなく、「空間化された時間の影」であり、作者自身がさう呼ぶやうに「虚体」であり、エピグラフにある通りの「悪意と深淵の間に彷徨いつつ/宇宙のごとく/私語する死霊達」なのである。悪意が生きた人間の实体ある世界と死霊達との繋がりであり、深淵が双方の間に存在する距離であり超越論的な隙間（凹）である。そして、悪意とはまたどちらに発する悪意なのか。「自序」の冒頭第一段落の作者の言葉は、この「時の象徴」が何を意味するかについて述べてゐます。

〔註3〕

正確には次のやうな安部公房の言である。

「空間に翻訳された時間の影」（「友達の稽古に入って一周辺飛行31」全集第25巻、35ページ上段）

また、

「因果関係は、単なる時間の影にしか過ぎない。たいていの場合、空間の変化、もしくは空間に刻まれた時間の爪跡にすぎないのだ。たとえば、時計。時計は文字どおり、時間をはかる計器である。だが、われわれが見ているのは、けっきょく文字盤の上を廻転する空間移動だけなのだ。いくら時計をにらんでいても、時間は見えない。同様、人間の運命や生涯を主題にした作品からわれわれが読みとるのは、あくまでも空間に翻訳された時間にすぎないのである。」（『時空の交差点としての舞台—周辺飛行28』全集第24巻、511ページ上段）

「この作品が非現実の場所を選んだ理由については一應触れておきたい。開巻冒頭にこの世界にあり得ぬ永久運動の時計臺を掲げたのは、nowhere, nobodyの場所から出発したかつたためであり、また、そのような小さな実験室を設定することなしにこの作品は一步を踏み出し得なかつたのだから。」（講談社『埴谷雄高全集 3』所収「死霊」9ページ）

かくして、二人の塔を「存在論の塔」と呼ぶことについては、誰の何の異論もないであらう。「塔の文学史」の改訂版(v5)を掲げます。ダウンロードは：<https://docdro.id/IL5WVDz>

2020/07/27, 09/04 岩田英隆		塔の文学史 (塔の鏡史) (v5)						
18世紀 幕藩体制による 資本主義の成熟した 世紀		日本位相史による現代			1945			
		第一の斯敍の時 明治維新 1867年(慶應3年)			第二の斯敍の時 大東亜戦争(アジア地域戦争)を 含む第二次世界大戦の終戦 1945年(昭和20年)			
上田秋成	個人の塔	西南の役 天の肯定 敬天愛人 西郷隆盛 「御者儀、今般政府へ 時局の賑かど」有之一	天の肯定 夏目漱石 則天去私 倫敦塔(時間の塔)	捨身御虎岡の塔 小林秀雄 断崖の塔(時間論の塔)	安部公房 散文「没落の書」「壁」 「パベルの塔の影」「箭野」 概念の塔(存在論の塔)	二つの平行線は空間が歪んで るので交はる/時間の空間化 安部公房 散文「没落の書」 概念の塔(空間の塔)	御納戸の塔 天の否定 江藤淳A「夏目漱石とその時代」「南洲残影」 八角堂の塔(時間の塔)日本の塔	
本居宣長	国家の塔	大久保利通	森鷗外 沈黙の塔(空間の塔)	幸田露伴 五重塔(人情の塔) この塔が伝統的な、日本人の 建ててきた塔である 仏教の塔	埴谷雄高 『死霊』 (存在論の塔)	二島由紀夫 詩文「凶ごと」 凶ごとの塔(時間の塔) 二つの平行線は時間の中では 永遠に交はることはない空間の 時間化 御納戸の塔	江藤淳B 「蒼林」の塔(空間の塔)アメリカの塔	
宣長と秋成の共通点： 人生行路が 他家養子→町医者 といふ人生を送つてゐることである。		<ol style="list-style-type: none"> 政治の塔：西郷隆盛(1877年)と大久保利通(1877年：西南の役) 文学の塔1：(1) 散文の塔：倫敦塔(1905年)と沈黙の塔(1910年) (2) 詩文の塔：A 俳句：正岡子規の法隆寺の五重塔(1895年)：柿くへば鐘が鳴るなり法隆寺 B 口語散文詩：西脇順三郎の斜塔(1957年)：詩論集「斜塔の迷信」 C 短歌の塔：佐々木信綱の当(★年)：ゆく秋の 大和の国の 薬師寺の一塔の上なる ひとひらの雲 文学の塔2：批評の塔：(1) 孤独な小林秀雄。もし一対の相手を求めれば、幸田露伴の人情の塔であらう。→小林秀雄も江藤淳も (2) 孤独な江藤淳：江藤淳Aの一対の相手は江藤淳Bである。→もう一対の批評家が ゐない 経済の塔：(1) 浅草の愛宕閣(1890年(明治23年)竣工) (2) 大阪の通天閣(1912年(明治45年)竣工) (3) 東京タワー(1958年(昭和33年)竣工) (4) 東京スカイツリー(2012年(平成24年)2月29日) (5) その他商業的な広告塔 						
		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 日本で塔といへば 仏教の塔であるといふこと。とする と奈良は塔の都である。 </div>						

これによつて解ることは、1945年といふ戦前・戦後の境目が歴史上あるにも拘らず、これに連続性を与へ、且つ個人と国家の関係を創造し維持しようとした作家が、埴谷雄高であり、安部公房といふ作家であるといふこと、即ち存在論が此の接続の役目を果たしてゐるといふ事実です。個人の塔と国家の塔を二人は一つにしようとしたと云つても良い。また、このやうに埴谷雄高・安部公房に倣つて位相視点で考へると戦前と戦後の歴史は連続してゐるので、1945年といふ数字を表中にある通り斜めに入れざるを得なかつた。日本の文学史にとつては、これは良いことです。この位相文学史は、別途論じてゐる『縄文紀元論』に依る「日本位相史」の上に重ねれば、一層奥行きと深みが増すでせう。

ふと思つたことは、ひよつとして、日本語のこれらの作家達の塔を立てたのは、神仏習合の無理矢理の分離と廃仏毀釈といふ誠に今となつては愚かしい明治政府の所業に原因するのではないか？といふ疑ひである。何故なら、私たちにとつて塔とは、仏教の塔であるからです。奈良は塔の都である。奈良が塔の都ならば、全国に仏塔はあらうから、かうして、日本は塔の国だといふことができる。

この二人の存在論の塔による接続によつて同時に、小林秀雄の「時間の塔」は「時間論の塔」と、塔の名前を改めた。いずれも時間と空間に関する認識と存在の分裂を一つにしようとする「第一の断絃の時」以来の必死の努力である。即ち、ヘーゲルの歴史観と唯物論のみに拠るマルクス主義の否定である。そして何故ならば、結論だけをここで云へば、塔は山であり、山と云ふ自然であるからです。

また、幕藩体制の元で現代資本主義の既に成熟してゐた江戸時代の18世紀を振り返つて、上田秋成と本居宣長に共通の人生行路のあることを此の間知りましたので、それを追記しました。二人の人生は、商ひの家に生まれまたは育ち、養子になつた経験のあること、町医者になつたといふことで、人生を同じ時代に歩んだ。このやうに共通することをまとめやうとしても、確かに形の上ではかうではあるし、二人の關係に仔細に考察する段になれば何がしかの意味はあるものと思はれるが、しかし、それぞれに独自固有の人生であつた。独自固有のと云ふ意味は、苦勞の多い人生であつた。苦勞のない人生などないと云ふ俚諺（りげん）めいた言葉を差し引いても残るそれぞれの苦しみを独自固有の人生と言ひたい。

さて、二人の塔を考察して来て「第二の断絃の時」がかうであるならば、次に問ふべきは、位相史の視点で眺めれば、「第一の断絃の時」など実際にはなく、江戸文学と明治文学は本当は深層では連続してゐるのではないか？といふ問ひではないでせうか。

5。小林秀雄の塔と安部公房の塔

(以下次号に続く)

サンチョ・パンサを求めて

(10)

エリアス・カネッティ

岩田英哉

その時、私はチューリッヒの駅前の目抜き通りを歩いてみた。天気の良い日で、何をしに歩いてみたものか、何故スイスに行かうと思つたのかも思ひだすことができないが、その時、右側の舗道を歩いてみたことは覚えてゐる。歩いてみると本屋があつて、本屋であるから中に入つて何気なく手にとつたdtv社の文庫本が、エリアス・カネッティの『言葉の良心』

(『Das Gewissen der Worte』)といふ題名のエッセイ集で、壁一面に天井まである高い書棚の前で小振り縦長の本の、最後の頁を開いて、といふのは此れは昔からの疑問なのであるが何故かドイツ語の本の目次は最初にではなく最後にあるので、その目次を上から下へと眺めると「Dr. Hachiyas Tagebuch aus Hiroshima」(「蜂谷医師の広島日記」)といふ題名に目が止まつた。今調べると原爆投下で自らも被曝しながら被害者の治療と研究にあつたといふ蜂谷道彦といふ此の医師書いた、海外に広く翻訳されて読まれた其の日記をカネッティが読んで、感想を記したものでした。このエッセイは1971年に書かれた。『箱男』の出る二年前です。

読み始めて数行も行かぬうちに、私はそのドイツ語に驚いたのです。強靱で、恐ろしく強靱で、しかし淡々としてゐて、淡々としてゐる分だけ激しい其の強さは表現の簡潔性の中に実に単純にあつて、顔も溶けてなくなり生ける死者といふべき無残な姿の広島の人たちの惨状が精確に、恰もカネッティが広島の中を通りながら道々見たかの如くに書かれてゐる。さうして、その時思つたのは、この作家の上に原爆が落ちて絶対には死なないだらう、平然と原爆に耐えて生きてゐることだらう、それほどに強靱な作家だといふことでした。こんな文章をドイツ語で読んだことがない。そのまま書棚の前で読み続けてドクトル・ハチヤの日記を最後まで読み耽り、いふまでもなく其の本を買つて、また明るい昼間の世界に出た。これが、エリアス・カネッティとの遭遇でした。遭遇といふに相応しい。何故なら、私に求める心はなかつたし、カネッティの方も日本では無名であつたから。

些か茫然としながら、私が此のともでもない作家の日本での第一発見者だと思つた。この年が西暦で1981年(昭和56年)であることを記憶してゐるのは、日本に帰国した翌年にカネッティがノーベル文学賞を受賞したといふ報道に接したからである。その報を聞いて、それは当たり前だ、この作家が受賞せずに一体誰が受賞するのだ、貰ふべき作家が貰つた、ノーベル文学賞の選考委員会の方もこれで其の判断に権威のあることを証明したか、逆にカネッティによつて証明されたなといふことを一瞬の間に思つた。当時の文学賞の選考委員にはボブ・ディランに受賞させようなどといふ、範疇の混同をする馬鹿な人間はゐなかつた。つまりは、今のヨーロッパの文学の現状も誠に素寒貧であることを此のアメリカ人のミュージシャンへの授与は示してゐるのです。

カネッティはドイツ語の作家であるが、生まれも育ちもブルガリアの人である。14世紀末にフランスを追はれてスペインに住み着いたユダヤ人たちが、15世紀末にまたスペインを

追はれて16世紀には大半はオランダに逃げたものを、何故かカネッティの一族はブルガリアまで逃げて生活の根を下ろして20世紀に至つてゐた。その末裔の一人がエリアス・カネッティといふわけです。カネッティの一連の自伝は誠に面白い。

安部公房が1982年のノーベル文学賞受賞の報で初めてエリアス・カネッティといふ名を知つて、その作品を読んだ驚きを次のやうに語つてゐることは、これも対談集『死に急ぐ鯨たち』所収の「地球儀に住むガルシア・マルケス」で読者にはお馴染みのカネッティ評が載つてゐて、それで何度も安部公房の言葉でカネッティを知ることができる。

「マルケスがノーベル賞をもらった前の年、カネッティがもらっているんだけど、実はカネッティという人、僕はノーベル賞もらうまで知らなかった。また変った人がノーベル賞をもらったのか、という程度。ところが法政大学出版局からちゃんと全集が出ているんだ。僕はかなり読書家をもって任じているほうで、それも人が読まない変った本を発見して読むほうです。その僕でさえ知らなかった。あわてて読んでみたわけですよ。今日はカネッティの話をする予定じゃないから簡単にすませますが、これが大変な作家なんだ。ノーベル賞委員会というのものけっこう見識があるなあと感心したくらいです。同時に法政大学出版局の見識にも頭を下げました。そして知らなかった自分を恥じた。おそらく皆さんの九割九分も知らないんじゃないか。ノーベル賞もらったあとでもね。その証拠にいぜんとして売れないらしい。それで、なんとかしたいと思ってNHKのテレビに出て宣伝してみたわけですよ。これほどの作家を知らないというのは恥ずかしいことだし、不幸なことだというようなことを話してみた。多少は効果があるかなと思ったのだけど、あとで聞いてみたら、1000部ぐらいしか伸びなかったらしい。けっきょく日本の読者は事大主義なのかな、たぶん週刊誌レベルで話題にならないとだめなんだね。」

「それからついでにカネッティ。ただカネッティの小説は一つしかない。『眩暈』（めまい）。これは彼が二十六歳のとき、一九三〇年頃の作品です。今さらノーベル賞という感じもするけど、見識と言えば見識とも言える。そういう苦しみに耐え抜いた作家。スペイン系のユダヤ人だけど、長いあいだ認められなかった。世界で最初にカフカ論を書いているんです。見えすぎていたのかもしれない。芝居も書いていますが、上演途中でみんな帰ってしまうし、新聞にはたたかれるし。イギリスに行っていたころ、本当に貧乏な暮らしをしていたらしい。偶然だけど萩原延寿君がオクスフォードに行っていたころ、これも金がなかったから学校が終ると安いパブに行って、ビールを飲んでパンでも食べていた。いつも隣り合わせに爺さんが一人いた。自分も黄色いアジア人で、孤独で、金もない。すぐその爺さんと友達になった。ずいぶん頭のいい乞食だなあと思って、試しにちょっと難しいこと言うと、向こうはそれ以上のこと知っている。名前を聞いたら、エリアス・カネッティ。さすがイギリスともなると立派な乞食がいるものだとも前は覚えていた。そしておとし、萩原君から電話があつて、「カネッティと言う人ノーベル賞とったけど、あれどういう人かね」、「僕知らないんだ」と答えると、「僕は実は知っているんだけど、あれは乞食だと思っていた」と言うできすぎた話があるくらい、孤独に耐え抜いて来た作家です。すごいものですよ。皆さん

にもぜひ買って読んでもらいたいけど、たぶん買わないだろうな。でもマルケスの短編ぐらいは、右脳のためにもね。さあ、もう言うことはなくなってきた。」

カネッティは『眩暈』をトーマス・マンに贈呈して感想を願ったが、マンからは梨の礫（つぶて）で落胆したことを自伝に書いてある。カネッティがマンの愛読者であるといふことは、私にはとても良く解ります。

トーマス・マン、エリアス・カネッティ、フランツ・カフカ、安部公房。

これらの作家たちは結果として有名であれ無名であれ、生前にさうであれ死後にさうであれ、安部公房自身の次のカネッティ評が当たつてゐる作家たちである。文学史も世評も信ずるには、およそ足りない。

「たとえばカネッティのことを考えると、読者の数なんて問題じゃないと思うな。もちろんカネッティの読者は少なすぎる、もっと読まれるべき作家だよ。でも読者の数とは無関係にカネッティは厳然と存在する。絶対に存在してもらわないと困る作家なんだよ。そういう作家が本当の作家だよ。ぼく自身、カネッティを知らずにすごしてしまった場合のことを考えると、ぞっとするからな。ごく少数の読者によってでも確実に読みつづけられればそれでいい。じわじわ燃えつづける泥炭の火みたいに、それはそれですごいエネルギーなんだよ。出た途端に何十万部ポンと売れるような物しか読まない読者だけを相手にしていたんではだめなんだ。」（『死に急ぐ鯨たち』所収「錨なき方舟の時代」）

追記：

自伝によれば、カネッティの両親はシャイクスピア劇の役者で、幼い頃に父親が死に、母親と暮らしたが、中学生になつてスイスの確かチューリッヒの学校にやられて寄宿舎生活を送つた。その後ウーン大学で化学の博士号をとつて作家の道を歩き始めた（かういふところが医学部を出て作家の道に入つた安部公房に似てゐる）。この時書いた最初の小説が安部公房のいふ『眩暈』であり、カネッティがマンに贈呈した作品です。萩原延寿にオクスフォードで出逢つたのは、ナチスの迫害を逃れてウーンからイギリスに渡つたからです。

既に十四歳（と記憶する）の時に、自分は文豪（ディヒター）になるとノートに書いてゐるので、文学への志は早や此の時にはあつたのです。文豪とは日本語ですが、ドイツ語ではDichter（ディヒター）といつて一義的には詩人といふ意味ですから、日本語ならば並の詩人ではなく大詩人といふことです。萩原朔太郎とか北原白秋とか三好達治とか西脇順三郎並みでなければDichterとは呼ばれない。カネッティは十四歳の決心の通りに文豪になつた。

『権力と群衆』が1971年に法政大学出版局より全集の一部として刊行されてゐる。私のカネッティの発見は1970後半か多分1981年ですから、それよりも10年早い。翻訳の時間を考へると1960年代の遅くとも後半には翻訳の企画を立てたものでせう。エリア

ス・カネッティの日本に於ける第一発見者の名誉は、この全集を翻訳した日本の優れたドイツ文学者達に帰せられるべきです。私もこの全集を知った時には、安部公房と同様、文字通りに其の着眼の早さと訳業に対して脱帽しました。

誠に、思へばカネッティらしいと云へばカネッティらしいのですが、一連の自伝には弟たちは一度も登場してゐない。今に至るも一連の自伝を読んだ後の私の感想と確かな記憶は、カネッティは母子家庭で育つたといふものであり、しかも上記の如く十代の途中でスイスに行つて寄宿舎生活を送つたために母子は別れて生きたといふ記憶です。そしてウイーンのカール・クラウスの演説会で見掛けて結婚した最初の妻Vezaを本当に愛した。どれほど愛したかは、最初に見掛けた時から此の女性に関する丁寧な文章が延々と続くことと、そして何よりも其の死のことが全く書かれてゐないことでよく判ります。ページをめくつて自伝を読み続けるうちにVezaがいつの間にか亡くなつてゐることを読者は別の文脈で知るからです。これは、トーマス・マンの小説の中での登場人物の死を書くときと同じ方法です。これは技巧の話では毛頭なく、宇宙観・人間観として考へて洋の東西を問はなければ、源氏物語にすら通じてゐる。即ち、従属文の中で其の人が「いつの間にか」（超越論の論理です）死んでゐることを読者は知るのです。従属文が雲隠れの巻になつてゐる。そして、これもカネッティらしいと私は思ふが、二人目の妻は考古学者であつた。さて、Wikipediaには二人の弟の記述がある：

実弟のジャック・カネッティはポリドールやフィリップスでディレクターを務め、エディット・ピアフやセルジュ・ゲンズブール、シャルル・アズナヴール、ジョルジュ・ブラッサンスやジュリエット・グレコやジャック・ブルル、ボリス・ヴィアンなどを手がけ、新人発掘の名手と言われた。その下の弟のジョルジュ・カネッティはパスツール研究所教授で、結核の専門家である。

CanettiのWikipedia：

- (1) 日本語：<https://ja.wikipedia.org/wiki/エリアス・カネッティ>
- (2) 英語：https://en.wikipedia.org/wiki/Elias_Canetti

これもまたカネッティらしいことに、ドイツ語の作家カネッティのドイツ語のWikipediaはない。不思議なことに、私の人生でお世話になつた作家たちは祖国にではなく皆スイスに墓がある。トーマス・マン（ドイツ）、ライナー・マリア・リルケ（チェコ）、エリアス・カネッティ（ブルガリア）、ジェームス・ジョイス（アイルランド）、そしてヘルマン・ヘッセ（ドイツ）の墓である。

カネッティがノーベル文学賞受賞の対象となつた『群集と権力』といふ労作は、安部公房の読者として21世紀の此の大衆化し通俗化し果てた偽善と偽悪の民主主義社会即ち意識・無意識の中に狡猾に忍び込んで来る扇情的共産主義の群集社会を、自分の頭でものを考へて冷静に独立した個人として生き抜くためには、一読二読三読の価値ある著作です。一体何故人間は盲目的で盲動的な群れ即ち大衆となり、そこで何が起き、それは何故起きるかについて、古今東西の資料を駆使し、カネッティの博学の限り知力の限りを尽くして分析してゐます。



頭がスカラベで表現された太陽神ケプリ



糞尿と性愛の文学

～生殖器・排泄器同一社会論仮説～

(1)

岩田英哉

もし他の人々が気違ひにならなかつたら、
我々が気違ひにならねばならぬだらう
ウィリアム・ブレイク

目次

0. はじめに

1. 古事記の中の糞尿と性愛
2. 夏目漱石の廁
3. 谷崎潤一郎の「陰影礼賛」
4. 森鷗外の「キタ・セクスアリアス」
5. 芥川龍之介の「好色」と「尼提」（にだい）
6. マルセル・デュシャンの「泉」と「大ガラス」
7. 稲垣足穂の「A感覚とV感覚」
8. 三島由紀夫の「仮面の告白」と「All Japanese are perverse」
9. 沼正三の「家畜人ヤプー」
10. リルケの「オルフェウスへのソネット」
11. パゾリーニの「ソドムの市」
12. 安部公房の「ソドムの死（散文詩）」と「便器にまたがった思想」
13. をはりに

0. はじめに

冒頭に掲げたウィリアム・ブレイクの言葉は、モーリス・ブランショのトーマス・マン論『デーモンとの出会い』からの引用です。『ファウスト博士』の語り手ツァイトブロームの言葉の引用にブランシェ自らが原註してゐるウィリアム・ブレイクの引用の引用、孫引きの孫引きといふわけです。マンの小説では次のやうに語られてゐる。呼び掛けられてゐる君とはいふまでもなくツァイトブロームによつて語られる物語の主人公の作曲家アドリアン・レーヴァーキューンのことです。

「君の狂気のおかげでもはや狂気になる必要がなくなった若人たちは君の名に絶対の服従を誓うだろう（原注）。彼らは君の狂気によつて健康を貪り、彼らのなかで君は健康であるだろう」

「絶対の服従を誓うだろう」とか「健康を貪り」といふ書き方が、これがヨーロッパ地域に生きる者の、キリスト教の唯一絶対神を離れて生きる個人の言ひ過ぎると私たちには見えるものの言ひ方であるのは、それほどに若者たちに対する宗教的な社会的抑圧が

強烈だからです。この事情は今も変はらない。寛容といふ言葉を使へば使ふほど、世の中が不寛容になり軋轢が起き、往々にして暴力沙汰になるのは此のためです。寛容といふ言葉を口にする者が唯一絶対神擬（もど）きになつてしまふ。私たちは不用意に欧米のこれに類する一連の言葉を安易に口にすべきではないといふ、21世紀の日本にも此の戒めの通用する、寛容とは其の好例の一つです。

しかし、マンの書いた此の論理と感情そのものは正しい。ものの言ひ方は人により様々ですが、私が此の論理に初めて接したのは二十歳の時で、それは「原典購読」の授業で講読したゲーテ最晩年の詩集『西東詩集』の中の或る詩にある論理でした。ここには性愛と死が謳はれてあり、同時に世界自体の在り方の動的な均衡（バランス）を確かなものにするためのブレイクやマンの言葉と同じ対抗均衡の論理と感情が、十分に成熟したゲーテの年齢と経験と知力による優れたドイツ語の表現になつてゐた。これは七十歳を過ぎてゐるゲーテが三十歳の人妻との恋愛をペルシャ（今のイラン）の非常に高度な文明の中に置いて、このドイツの二人の恋人たちの世界にペルシャの詩人ハーフィスと恋人ズーライカの相聞を二重写しにして詠つた誠に洗練に洗練を重ねて編まれた相聞歌の詩集である。以上此処までの此の論理を「対世界対抗均衡論理」と呼び、これに依る論を「対世界対抗均衡論」と呼ぶことにします。文脈に応じ、世界を宇宙と呼び替へて「対宇宙対抗均衡論」と呼ぶことができる。


題名は糞尿と性愛の文学としましたが、これは当然にいふまでもなく、糞尿と性愛には死が共通して含まれてをり、死が含まれて性愛があれば其れは当然に神聖なるものが其処には生まれてゐるといふこともまた暗黙のうちに意味してゐる。性愛が死と共にあれば神聖であるやうに、性愛が其のやうであれば、糞尿（廃物）もまた神聖であり、死とともにあるといふことになります。性愛を求め、死を厭ふ世俗は生死背反の矛盾に満ちてゐる。神社に参詣し、糞尿を厭ふ世俗は背反と裏切りに満ちてゐる。三島由紀夫は「仮面の告白ノート」では、これを人間の恥部かも知れないと書いた。安部公房は此の論理を積極的に肯定して「便器にまたがった思想」と呼んだ。そして若年の作品から最後の作品に至るまで、便所と便器と廃棄物（この中には人間も含まれる）は、この作家の世界の最も本質的な核心であり、安部公房の宇宙の根元に揃つてある事物であつた。戦争の最前線の塹壕で兵士が簡易便所をどこに如何につくつてどのやうに排泄行為をしたかの想像力に欠ける20世紀に書かれた安部公房前衛論の底は浅いのである。猖獗を極めたといふべき（小穴ではない）安部公房前衛論では、安部公房の便器といふ穴（凹）の思想を理解して説明することができないし、その優れた作品の結末では何故いつも男女の道行が、伊邪那岐命が根の国から伊邪那美命の手を引いて連れ出すが如く、また近松門左衛門の戯曲の結末のやうに男女が手を繋いで死に出の旅に出るが如く、主人公が女の手を引いて閉鎖空間から脱出する筋立てになつてゐるのかを理解することができない。曰く『魔法のチョコレート』『S・カルマ氏の犯罪』曰く『箱男』曰く『方舟さくら丸』曰く曰く曰く……。安部公房の世界でありますから、男が女の手を引くといふことになつてはゐても、実際にはトポロジカルに手を引かれる女の方が男を主導するのでありますから、古事記の二柱の夫婦の神も、近松の心中物の二人の恋人たちも、女が男を死へと導くと解釈することは、日本の文化にあつては容易なことだと私は思ふ。外面と内面は違ふのである。まあ、外面如菩薩内面如夜叉といふこともあるだらうが。これらの日本的と想はれてゐる実はずではない普遍的な結末は、ゲーテならば『ファウスト』の最後にあ

る「名状しがたきもの。 / (略) / ここにて成しとげられたり。 / 永遠の女性、 / われらを高みへ引きゆく。」(手塚富雄訳)の詩行に相当する。われらとは、我ら哀れなる男(をのこ)どもである。

いづれにせよ、恥部と聖部は表裏一体、実は同じ穴から生まれて来るのである。穴とは女性の秘所であり、秘所が穴(凹)の形象である限り、古事記の国生みの神話にある通りに、しかし、これが一体人間の恥部であらうか。この女性といふ性に備はる圧倒的な生命力の故に、女性から男性に婚姻の申し込みの声を掛けてはならず、に存在する宇宙の均衡(バランス)をとるために、男から女に声を掛けるのが、本来の私たちの嗜(たしな)みとなつて、私たちの無意識の教養即ち文化のあらゆる深部といふ深部を形成してある。即ち、左優位右劣位といふ太古からの私たちの縄文思想です。これによつて、伊邪那美命の穴から日本の国が生まれた。このやうな私の書き方は、私の生来の幾何学的な感性によつて些か散文的であらざるを得ないが、この方が此の手の話をするのには返つて都合が良いであらう。この思想の持つ論理は一神教の男尊女卑とは全く無縁であり、従ひ、15世紀にポルトガル人が日本の島にやつて来てから500年を閲しても、キリスト教の信徒の数が人口の1%に満たぬ理由が此れであらうと思はれる。私たちは偽善の道徳に従つて、自分を苦しめるには及ばない。私は、このやうな文学を論ずることによつて、通称「日本近代文学」は江戸文学と少しも断絶などしてゐず、依然として今日に至るまで連続してゐることを、位相論の視点で、これらの領域を横断縦断しながら証明し、この明治維新以来150年余の『我輩は猫である』に活写されたインテリ(高等遊民)たちの偽の苦しみを木つ端微塵にして、二十一世紀の日本文学の地ならしをしたいと此処まで書くと大言壮語が過ぎるであらうか。実は、単に自分の趣味と興味と関心に従つて此処まで書いて来たのである。此処から先も同様の道を行く以外にはない。思へば、『我輩は猫である』に活写された高等遊民たちの話は座談であるが、プラトン描くソクラテスの話は其の座に何人ゐやうが対話であるといふのは座に臨む彼我の意思疎通の議論と云ふ事の考へ方と態度の相違をよく示してゐる。古代ギリシャ人に和歌や俳諧や連歌を理解させることは難しい。同様に私たちもまた「近代人」とか「近代的個人」とか「近代的自我」などといふ翻訳語に惑はされ、おまけにデカルトまであらぬ濡れ衣を着せられて、道を間違へた偽高等のインテリ遊民たちを大勢此の150年余の歴史の中に抱へてゐて今日のマス・メディアに出て来るほどの大衆化された自我のない糞つたれ個人の氾濫とはなつて、多数決といふ民主主義の原理も良き方向には全く機能しないと云ふ素晴らしい、本音でなければ生きて行けない糞味噌の時代に到頭なつたのである。私は糞尿と性愛を語り死を語る共産主義者のみに信頼を寄せるであらう。

対話からなる座は司会者を必要とし、他方、私たちの座談の場では、和歌や連歌や俳諧の伝統のままに自然に縦のものは横になり、私たちは此の太古・古代からの名付けられぬ存在の元で絶対的な平等性の、世俗の名は仮のもの故本来無名の者として同じ平面の上に並んでゐる。私たちの座談は司会者を必要としてゐない。どのやうな名前であれ、書記係がゐれば良いのです。イギリスの議会を見てみると、此れは対論ですから議長は必要です。しかし私たちには司会者は座談の邪魔になることを思ひ出せば、果たして国家議事堂の中に衆議院議長とか参議院議長などは必要なのであらうかと私は疑ふ。宗匠と執筆(ゆうひつ)二人がゐて、あとは円卓にして椅子を並べれば、あの不毛なる議論はなくなるのではないか？

最近の通俗的な話題の一つに、さる名の知られた若手の漫才師が六本木といふ東京の都心の流行の街にある、これも巨大不動産資本の手になつて建設された最新の高層建築の、何階での話かは知らないが、その多目的機能を謳ふ公衆便所の密室空間で男女の事に及んでみたことが露見したといふ事件があつた。多目的機能を謳ひ文句にするならば何をやつても多目的の目的に適ふならば良いだらうに、世の中の話はさうはならず、この男を既婚の故に非難することの感想のみが多かつたやうである。人を呪はば穴二つ。

私の話はさうはならない。何故なら、この衛生的密閉空間は、近代文明の産物だからです。文明の英語がcivilizationであれば、その語源からいつて城壁で囲んだ都市の建設を前提にヨーロッパの文明は成り立つてゐる。その内側にのみcivilizationと呼ばれる文明はあり、civil work（下水道などの土木工事）が行はれて、便利なcivilの都市生活があつて、特権的な利便の享受者citizenが居住する。その外部は全て農村である。これが彼らの都市と農村、都市と自然の構図です。そして実は此れは、いふまでもなく、私たちの都市と自然・田舎の構図ではなく、従ひ私たちの文明の構造ではない。六本木の話のビルの水洗便所が、もし和式便所であると想像してもらひたい。そこで男女が果たして事を致すであらうか。ところが、私たちは致すのであります〔註1〕。性事は万事。此処に谷崎の「陰影礼賛」の鋭い文明批評があるのです。私たちの糞尿と性愛の文学とは、そのままヨーロッパ近代文明批判（Kritik）になる。何故ならば、谷崎の日本文化陰影礼賛論は延々と続く和式便所・和式便器礼賛陰影論に他ならないからです。従ひ、この論考は自ずと都市論であり、此れは此のまま近代資本主義批判（Kritik）です。これが副題の生まれた理由です。この論の最後には、この副題は「生殖器・排泄器同一宇宙論真説」になるでせう。の出番です。

この「はじめに」と題したプロローグに、「エピローグ」と題した詩を「終りし道の標べに」立てて初めは終はり終はり初めの接続を一捻りしてメビウスの環となして、自伝を読むと東京と云ふ大都市の中で生きた此のポルノ女優であつたいけな少女の死を悼むことにします。私は、男も女も真つ正直な素つ裸で生きる人間を愛する。この少女は巫女であつた。

「エピローグ」

私の好きな詩がある。

神様が人を創り、様々な心の働きを埋め込みました。

ところが、うっかり、“羞恥心”だけは入れ忘れてしまった。

でも、もう人のかたちをなしている。

入れ忘れてしまった“羞恥心”をどうやって埋め込もうか。

悩んだあげく神様は“羞恥心”に「ここを通過して入ってくれないか？」と頼んだ。

そこは本来、体の外へなにかを排泄する為の穴だった。

“羞恥心”はそれを嫌がり拒んだらしい。

「では、条件をだそう。今後さらに他のものが入って来たら、すぐに出ていってもよい」

神様はそう約束した。

ふと思い出した。
私の純粋な愛情を拒んでいた彼のこと。寂しかったその瞬間の気持ちを。
「こんなにも愛している」私の純粋な気持ちを受け入れて欲しかった。
そして「愛されていないのかな？」と不安を覚えた。
ハートが欠けた音がした。

私はいつも探し続けている。
生まれた時からずーっと探し続けている。
ピッタリと重なり合うことができるハートを作れる相手を。

でもなかなか見つからない。
焦って不安で寂しくて無理やり何かを合わせてきた。
完璧なハートなんて絶対に創れないことに私は気づいてしまった。
それでも私は溶け合いたい。

セックスしているときだけが限りなくひとつになれる気がする。
ボタンが一つ一つはずされるたび。
心が少しずつ脱がされていく。
裸の私はそして思う。

愛する人の体は愛しい。
本来 汚らわしいと感じる場所ほど愛しい。
あなたの醜いところも愛撫していたい。」
(飯島愛著『PLATONIC SEX』最後の章の全文)

須佐之男命が大宜津比賣神（おほけつひめのかみ）を殺したのは、この姫神を愛してゐなかつたからである。しかし、殺された姫神の死体から私たちの食べる五穀の豊穰が体中の穴といふ穴から生まれ出たのだ。

糞尿と性愛の文学とは、かく愛がなければ、そのまま殺人者の文学となり、人の死と自然再生豊穰の文学となる。しかし、人は果たして死ぬものであろうか？須佐之男命は本当に大宜津比賣神を愛してゐなかつたのであろうか？人も神も何か誰かを愛さずに死んで行けるものであろうか？しかしまた、何故安部公房の好きであつたポーは密室殺人事件の小説範疇をアメリカのボストンにゐて創造したのであろうか？何故品川泉岳寺の赤穂浪士四十七士の墓には線香の煙の絶えることが今に至るもないのであろうか？もし他の人々が気違ひにならなかつたら、我々が気違ひにならねばならないだらう。

[註1]

この漫才師は江戸時代以来の都市の伝統に則つて便所で逢引したのであることは、下記の絵草子を見れば判る。江戸時代にも便所は男女の格好の逢引きの場所であつた。この漫才師は謹慎の必要はなく、大いに伝統復活のために舞台の上で活躍して客を笑はせてもらひたい。先輩の漫才師やすしきよしのやすしのやうに警察にご厄介になつたことをネタにする位の生命力を発揮してもらひたいものである。それでこそ藝人であり河原乞食である。

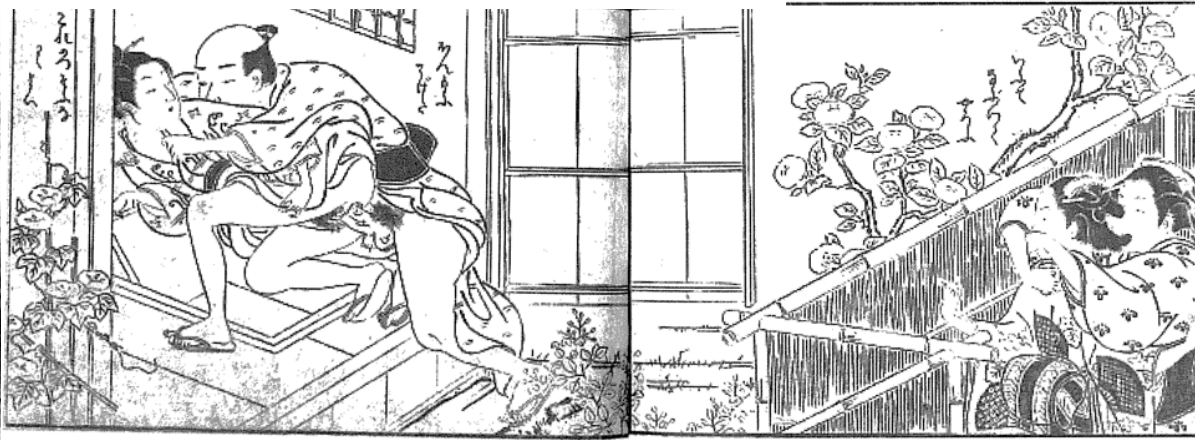


図3-10 武家屋敷の外便所と思われる。女は腰元、男は髪結で、かねてより相思相愛の仲。女は男の足音を聞いて、そっと屋敷から抜け出してきた。便所は、スリル満点の密会の場でもあつた。宮川春水『百色初』(明和(1764~71)中期)より。国際日本文化研究センター蔵。



後述する谷崎潤一郎の「陰影礼讃」で論じてゐる和式便器は江戸時代の此の型のものです。和式便器に明治維新はない。

図3-9 大きな屋敷の外便所での奉公人らしき男女。男は、女が便所に行く機会を狙い「本望遂げた」。女は「これ、滅相な」と驚き嫌がっているが、最後は「ああ、よい」と言っている。右側の垣根の隙間から、女ふたりがのぞき、「腹の立つ」「言うて、なぶってやろう」と妬んでいる。『床すず免』(司馬江漢)より。国際日本文化研究センター蔵。



(永井義男著『江戸の糞尿学』「3……愛慾の場所としての便所」134ページから135ページ)

恥も搔き、頭も搔き、尻も搔くが、もの書きも文藝と云ふ藝の専門家である以上は、変はらないのである。文学を高なるものと思ひ過ぎて私の言ふことが良く理解のできぬ方は、安部公房・三島由紀夫・川端康成・石川淳の反中国共産党の文化大革命反対宣言発表後のこれら四人の座談『われわれはなぜ声明を出したか』での後半部の石川淳と三島由紀夫の対論をご覧なさい。(「虚の世界と実の世界と」と「文化とは何か?」の章。全集第21巻『われわれはなぜ声明を出したか』、21ページから25ページ) 私は雲古と書くが、三島由紀夫は便通とは書いたが遂にウンコとは書けなかつた[註A]。この石川淳との対論は死ぬまで三島由紀夫の問題であつたに違ひない[註B]。何故なら西暦1970年(昭和45年)の死の月の前月に、同年五月に其れとはいはずに最後のお別れの会食をしてゐる中にも拘らず、再度の会食を石川淳とだけは共にしてゐるからである。果たして、三島由紀夫は日本の国を愛した河原乞食として死んで逝つたのであろうか? この三島由紀夫を

全面否定的に肯定した上での徹底的なる陰画を描いたのが安部公房の『箱男（1973年）』である。どこまでも両極端にゐる二人であつた。安部公房の言によれば、二人はあらゆる接点を共有していながら互いにすべての接点で正反対の方向、或いは接点そのものの陰陽が裏返っている。安部公房曰く「彼との接点は、全部うらがえしになっている。」（「『対談』 [対談者] 大江健三郎・安部公房」全集第29巻、73ページ下段）。

〔註A〕

安部公房との対談『二十世紀の文学』（1967年）の中で「セックスの問題」から「言語の疑わしさ」に話題が移つた後者の章で三島由紀夫曰く「僕はね、品のいいものと悪いものと非常に区別するのだよ。それでやはり、ウンコと言うよりも便通と言つたほうが品がいいと思うのだよ。」（全集第20巻、60ページ上段）対して安部公房は『燃えつきた地図』（1967年）の最後の場面で主人公の探偵が電話ボックスの中で目にする孤独な誰かの便通の結果をはつきりと大便と三度も書いてある。（全集第21巻、309ページ下段）そして、その干からびた大便の其の植物繊維の毛羽立つた様に至るまでの微に入り細を穿つた書き振りは、三島由紀夫にはとても真似できないものである。

〔註B〕

「ジョン・ネイスン著『ある評伝 三島由紀夫』によれば、1970年、「六月に入ってから三島はまた、それとなく人々に別れを告げはじめています。」三島由紀夫は「六月だけでも、三島は六人ばかりの作家や批評家たちと最後の夜を過ごしている。その中には、三島が最も尊敬していた石川淳、武田泰淳、安部公房の三人（いずれも三島が楯の会を結成したとき、これからは政治の話はよそうと申し合わせた文学者たちである）もいた。」と、あります。（同書235ページ上段）

1948年12月、三島由紀夫が初めて「世紀の会」の席上出会つた安部公房に、そうして同席した武田泰淳に、1970年6月に、こうして最後のお別れの挨拶をしたのです。三島由紀夫は、安部公房が存在の中で師弟の礼をとつた石川淳には、その後再度同じ年の秋に、1970年11月25日の死の前に、対談をしております。（『安部公房と三島由紀夫の出会いと別れ～安部公房、石川淳、三島由紀夫～』（もぐら通信第40号）

もし他の人々が気違ひにならなかつたら、我々が気違ひにならねばならないだらう。

1. 古事記の中の糞尿と性愛

1.1 神武初代天皇の皇后（きさき）の出生譚

（以下次号に続く）

ネット・メディア論
(12)

岩田英哉

目次

- 0. はじめに
- 1. 国家とは何か
- 2. 用語の定義
- 3. メディアとは何か
 - 3.1 マス・メディアとは何か (20世紀)
 - 3.2 ネット・メディアとは何か (21世紀)
- 4. ネット・モノダ論
- 5. 公私とは何か
- 6. 二階層戦争論とメディア論の関係
 - 6.1 ネット・メディアの問題を二階層戦争論で考察する
 - 6.2 ネット・ヘゲモニー問題とは何か
 - 6.3 二階層戦争論による解決策
 - 6.4 空気とは何か
 - 6.4.1 空気の定義
 - 6.4.2 オロチXの定義
 - 6.4.3 同調圧力とconformityと空気の関係
 - 6.5 何故民主主義は共産主義であるのか
- 7. 政治形態と自由
 - 7.1 政治形態とは何か
 - 7.2 自由とは何か：私たちの自由およびlibertyとfreedomの違い
 - 7.3 公私の最小単位再説
 - 7.4 政治形態E&Aの公私：一神教のtopologyの政治形態
 - 7.5 政治形態Jの公私：高天原のtopology (超越論) の政治形態
- 8. 経済形態と自由
 - 8.1 経済形態とは何か
 - 8.2 資本主義と政治形態Jを如何に一つにするか
 - 8.3 ネット・メディアの役割
- 9. 私たちは如何に生きるべきか
 - 9.1 学歴無用論：盛田昭夫著『学歴無用論』
 - 9.2 学問有用論：福沢諭吉著『学問のすすめ』
 - 9.3 グローカリストとしての千利休 (令和時代の人間像)

青字は既論の章、赤字は今回論ずる章、黒字はこれから論じる章

7. 政治形態と自由

政治形態とは何かと云ふ問ひに対する答へは、既に此のメディア論の最初に提示してあるので、此処では其の図「近代国家模型図」をも参照して自由とは何かの話に入りたい。政治形態と自由の問題を考へる場合には、この模型図と自国政治の実態と、そして自由の問題を併せて考へるといふことである。欧米白人種キリスト教圏の人間達が政治と自由の問題を論ずる時の枠組みは下記のマトリクスの枠内であることが『哲学の問題101』連載の「自由」（もぐら通信第90号）で明らかになりましたので、この時得た成果を再掲します。海外の人間達、それから国内にある反日勢力をなす外国人が自由を云ふ時には、このマトリクスの中で声を声高に上げてゐることを承知してゐれば良い。

20181019							
欧米人（キリスト教徒）はどこで（どのセルで）自由を考へてゐるのか？							
(v2)							
Matrix 1：分類視点：組織と個人							
	人種	宗教（一神教）	政治	経済	文化	備考1	備考2
国家						思考、判断、責任、承認、「他の人たちと談話・談論・討議することのできる能力」	マルクス主義は国家を認めない。社会が人間の組織の最上位概念
社会							
個人							
Matrix2：分類視点：豊かさや貧しさ							
	人種	宗教（一神教）	政治	経済	文化	備考1	備考2
豊かさ						金と食べ物	豊かさや貧しさは、国民の生命と安全保障に関する問題であるので政治の問題であり、備考1にある金と食べ物といふ視点で同じ問題をみれば経済の問題であり、またかうして政治と経済の問題は、何事にも余剰から生まれる文化の問題である。
貧しさ							

ダウンロードは：<https://www.docdroid.net/suZaexp/v2-pdf>

とはいへ、他方、自由とは何かについても既述の通りであつて、この概念は消極的な定義しかできない概念であると云ふ事実については読者に伝えて来た通りです。自由の定義を再掲します。

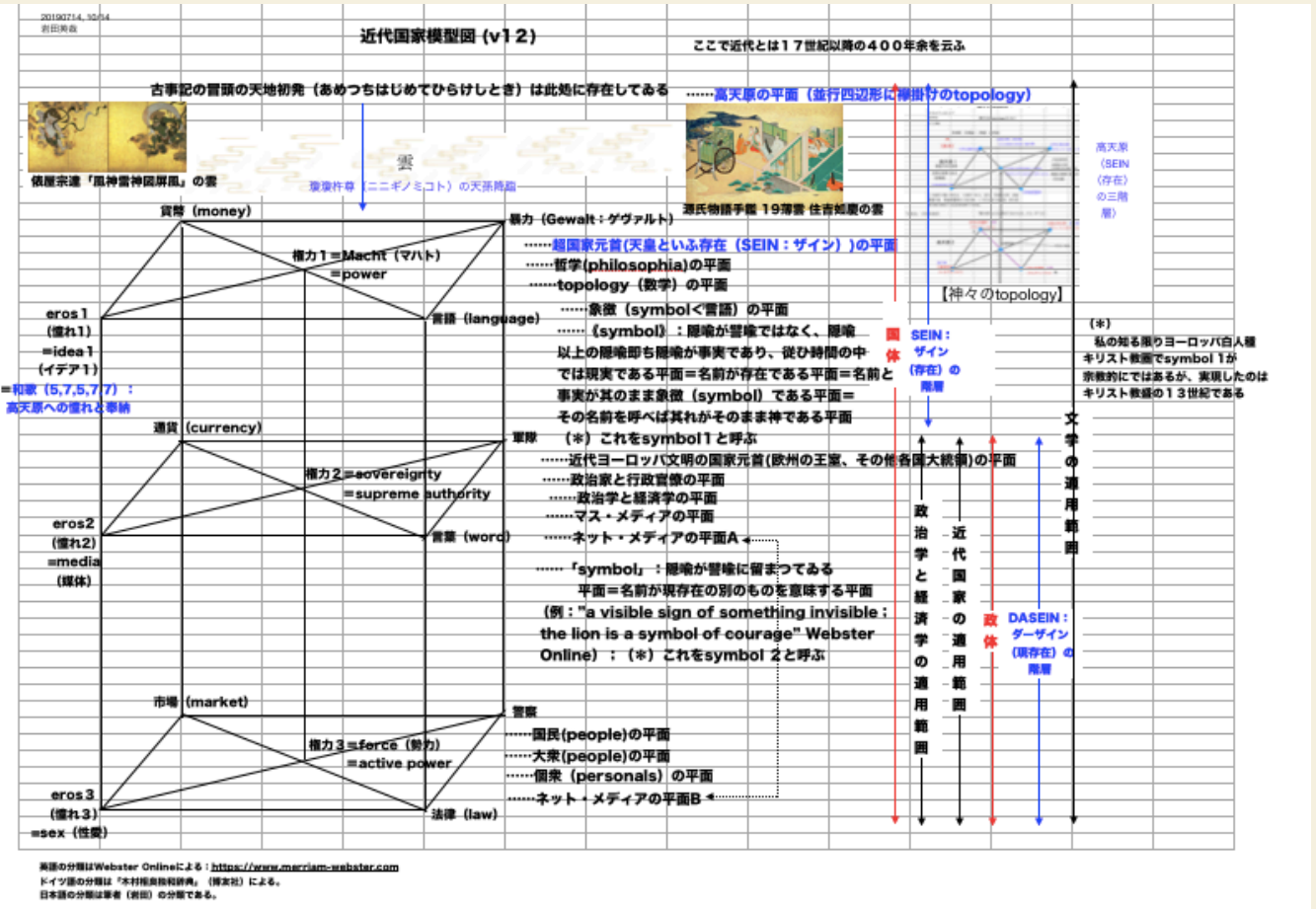
自由の定義

自由とは、不自由ではないことである。

それ故に誠に奇妙なことに、自由を論ずるとは、不自由を論ずることになつて、即ち自由といふ言葉を否定しなければ、自由について考へることができないと云ふ矛盾に陥ることが常なのである。従ひ、普遍的な自由などは何処にも存在せず、あるのは個別の不自由の問題を解決するための自由であり、従ひ、もし不自由が個人的な小さな自由であるならば其の人なりに其の個人単位で、もし自由が大きな、例えば人類の問題であるならば、これは問題解決のサイズ（規模）としては国家単位での国内での不自由を解決すると云ふこと

になるのです。何故ならば、国家は人類水準での問題を解決するための最適の最小にして（国際社会から見れば）最大の（国内社会から見れば）組織単位であるからです。即ち、国際組織には個別国家内の問題は解決ができないし、しかしかく結論に至つて見れば至極、これは当たり前のことです。何故なら各国毎に伝統が異なるからです。伝統といふ概念には自づと個別言語と文化と歴史が含まれてあります。

ですから、各国別に各国民が下記に掲げる「近代国家模型図」をモデルとして個別国内問題を解決する以外にはない。さて、その上で、既に考察済みの欧米白人種キリスト教圏に於ける自由の問題の全体は上掲のマトリクスに（一覧表）にある通りであることを此処で再度確認した上で、あとは人権とは何かといふ問いに答へることができれば、これで何が起きて政治と自由と人権の問題を考へるにあつての遺漏はないと云ふこととなります。ダウンロードは：<https://www.docdroid.net/FZt3WKs/v12-xlsx>



【結論】

純然たる論理の問題としてみれば、政治と自由と人権といふ世界中を騒がせている問題は、キリスト教といふ宗教を否定したり、これから離れたり、非宗教的になつたりして、さうしてものを考へようと云ふ理屈と態度から生まれてあるものです。この理屈と態度とは契約で、キリスト教なしで、やつて行かうと云ふ18世紀の彼らの云ふ啓蒙主義以来のもの考へ方であり方法です。即ち政治と宗教の分離です。これが混乱の第一原因だと極東

の私の目には、さう見える。垂直方向の、天地の間に存在する権力（Power）—最初のPは大文字で書かれるべき言葉でせう—の姿を見失ったからです。私たちならば、古事記の巻頭第一行に戻つて、この力（エネルギー）即ち圧倒的な自然（コト）の有する生命力のことを思ひ出して良く考へると云ふことです。

さて、これらの構図の明らかになつた上に加へて初めて、民主主義（政治）と資本主義（経済）の関係を考へることができるやうになります。するとどうなるか。しかし、これを考へるとは一体如何なることかと、その根本を考へて見ますと、これがまた面白い、結局最初も最後も、知つてゐるか知らないか、知か無知かと云ふ人間の知識と認識の問題に、どうしても、帰着をするのです。或ひは論語に戻つて、知るを知るとなし、知らざるを知らざるとなす此れ知るなりと云つても良い。今から数へて2500年前の賢人賢者の智慧に戻る。

従ひ、此処で私たちの社会を構成する二つの主義、即ち資本主義（capitalism）と民主主義（democracy）の定義に戻つて考へることにします。英語の原義に戻ると、資本主義はism（主義）であるが、民主主義は主義ではなく、-cyと云ふ末尾から自明のやうに実は人間の認識の問題であることが判ります。かうして、結局、民主主義（democracy）は、あなたの個人の認識の問題に帰着するのです。もしあなたが動物ではなく人間であるならば、此処にマスであれネットであれ総称して云ふメディア論の大切である余地があるのです。何故ならメディアは国家と個人を接続する媒体（メディア）だからです。以上の物事を考へるために必要な定義を再掲します（「ネット・メディア論（1）：国家とは何か」（もぐら通信第105号）より）。

社会の定義

社会とは、民主主義と資本主義に拠る世の中のことである。

資本主義の定義

資本主義とは、近世ヨーロッパ白人種キリスト教徒の生み出した株式会社を基本単位とする経済の仕組みである。

[補足説明]

日本の江戸時代の18世紀には既に幕藩体制の元で、米穀相場を立てて信用取引を行ふ成熟した現代の資本主義が200年先行して存在してゐるので、資本主義の成熟には必ずしも民主主義を必要としないと云ふ此の歴史的な事実によつて、私たちは全く新しい政治形態と経済形態の組み合わせと其の融合を新しい国体として考へ實現することができる。

経済の定義

経済とは、その目的を経世済民に置いた、相場と市場の肯定を前提にして、政治による国民の所得の増加を図るための、即ちGDP（国民総生産）を増大させるための、政治による政策運営のことである。狭義広義の共産主義を問はず、共産主義は此の経済を全面否定する。

相場の定義

相場とは、その手段と対象を選ばず、単純に売りと買いの行われる場所と機会である。そこで或る時間或る程度の安定を得る価格をも含めて相場といふ。

民主主義の定義

民主主義とは、資本主義と裏腹の関係にある政治の仕組みであつて、近代ヨーロッパ白人種キリスト教徒中産階級が生み出した、キリスト教の唯一絶対神を否定するかまたは此の宗教的な絶対支配者の支配から離れて、従ひ、自由に人間の個人同士の社会的な契約関係に拠つて「近代国家構造模型図」の二層目と三層目で自分たちの自治によつて政治を執行することを考へた政治体制である。

[補足説明]

しかし根底はキリスト教の一神教のトポロジーであるので、広義には共産主義の一種である。即ち、三権分立を「近代国家構造模型図」の権力1の一層目に据ゑた共産主義である。要するに民主主義は共産主義である。100人の社会で一人だけに権力が集中すれば其れは独裁政治と呼ばれ、狭義の共産主義となり、51人の過半数で政治を行ふと其れは広義の共産主義、即ち民主主義と呼ばれる。このことあるにも拘らず、三権分立を国家的自由の根拠として、狭義の共産主義の計画経済に対して、この広義の共産主義の経済を此の理由で自由経済と呼び、これが主義になつた場合には自由主義の経済と呼ばれる経済を行ふ。

そして、此処まで来て、やつと人権の定義をすることができる。

人権の定義

人権とは、社会の中でのみ通用する、人間に関する権利である。従ひ、当然のことながら、社会の外部に人権は適用されないし、そもそも無い。

そして既に『縄文紀元論（9）：5.10 何故国家は単数または複数の神とともに生まれるのか』（もぐら通信第118号）で得た民族と国家の分類は次の通りです。

「日本民族の定義

日本民族とは、日本語・天地（あめつち）八百万の神々・日本人の文化を大切に共有する人間の集合である。このやうに集合し習合する国家を日本の国といふ。」

この定義は普遍性があるので「日本民族」を単に「民族」として、今此処で自然国家の定義をすると次のやうになります。

自然国家の定義

自然国家とは、個別民族（people）の個別言語および単数または複数の神と共に生まれた

国家の文化と伝統を墨守する人間の集合である。

「さうすると日本の国のやうな、様々な意味でかう呼び得る自然国家に対して、人工国家または人造国家の定義を次のやうにすることができます。

人工国家の定義（人造国家の定義）

人工国家とは、言語・神・人間の関係より生まれる/た文化よりも、神話と歴史を欠いた国家を優先させて成り立つ突然の、従ひ歴史の欠落した国である。この人工国家には、いふまでもなく共産主義国家が含まれる。

[補足説明]

しかし国家を名乗るのであれば、必ず建国は神々を必要とするので、片や宗教が、片やイデオロギーといふ狂信的な主義が擬似宗教（カルト）になるまでに、それぞれに必要とされることは、これも歴史の必然であつたことが21世紀の今になるとよく解ります。この二つの国家の両極端なるものが、片やアメリカ合衆国、片やソヴィエト連邦や現下の中国共産党にみる共産主義国家である。両極端は相似たりといふ。前者は本物の宗教国家、後者は偽物の宗教即ちイデオロギー国家である。現下の戦争が宗教戦争であるとは、本物の宗教（キリスト教）と偽物の宗教（マルクス主義・中華主義）の戦争であるといふことが、かく考へれば、よく解ります。」『縄文紀元論（9）』（もぐら通信第118号）

もう一つ此の章の最後に付け加へるべきは自然のことです。欧米の政治学と経済学に致命的に欠落してゐるのが、自然と云ふ概念であり、自然自体です。『安部公房とチョムスキー（8）』（もぐら通信第81号）の「7. 一神教と大地母神崇拝をtopologyで読み解く」の「D地1」より引用します：

「(c) この、国に対して顔と胴といふやうな人の体の部分の名前を名付けるといふことは、大地母神崇拝の論理と感情を表してゐるのではないだらうか。何故ならば、ずっと時代を下つた西暦500年前の古代ギリシャの多神教の世界に生きるソクラテスが、プラトンの『国家篇』の中で国家とは何かを対話しながら最後に、何故国のことを人間の体の隠喩を用ゐて考へるとこんなに上手に国といふものを論じ理解することができるのだらうかと感嘆してゐるからです。自然といふものを顧慮せずに論ぜられる近代ヨーロッパの近代国家に関する政治学は、どこかに致命的な欠陥を抱へてゐると思はれる。何故ならば、その政治学は自然のことを放つてをいて、人間と法律ばかりを論ずるものではないかと思はれるからです。政治の外部は自然だといふことを前提にして考へられるのが、21世紀の超越論に基づく政治学であり政治論であるといふことになります。経済についても同様です。」

以上のことを踏まへて、以下の論題に入ります。

7.1 政治形態とは何か

7.2 自由とは何か：私たちの自由およびlibertyとfreedomの違い

縄文紀元論

Topologyで日本人を読み解く (12)

5.15 縄文土器とは何か

(3) 第三段：大倭日高見国は大祓の結果どうなったか

岩田英哉

目次

I 縄文紀元日本語論

1. 日本語と漢語の関係

Intermezzo：何故日本にはキリスト教徒が全人口の1%しかみないのか？

2. 日本語の音義と概念の関係：五十音表とは何か

3. 五十音表を記号化する

4. 日本人の言語宇宙

5. 古事記の宇宙観

5.1 高天原とは何か1

5.2 カミとは何か1

5.3 高天原とは何か2

5.4 日本語の特殊の中の普遍

5.5 海の民のお祭りと超越論の関係

5.6 天照大神とは何か

5.7 月読命とは何か

5.7.1 月とは何か

5.7.2 月読命とは何か

5.7.3 月読神社とは何か

5.7.4 ヤシロとは何か

5.7.5 「鹿座神影図」を読み解く

5.7.6 磐座と注連縄の関係

5.7.7 亀の甲羅とは何か

5.7.8 習合とは何か

5.8 カタカナとひらかなの関係

Intermezzo 2：海風之大刀（アマナギ・ノ・タチ）は一体どんな姿をしているのか

5.9 日本位相習合史

5.10 何故国家は単数または複数の神とともに生まれるのか

5.11 かがめかごめの歌は一体何を歌っているのか

5.12 縄文土偶とは一体何か

5.13 習合といふ漢意をやまところ何といふのか

5.13.1 位相史のための紀元の種類

5.13.2 淤能基呂島とは何か

5.15 縄文土器とは何か

(1) 縄文基本用語の種類

(2) 縄文土器の構造的スケッチ（素描）

5.16 大祓を読み解く

5.16.1 何故私たちは御祓を必要とするのか

5.16.2 大祓へに唱へられる「聞こし召す」とは何か

5.16.3 「聞こし召す」前に「しろし召す」がある

(1) 第一段：高天原八百万神大祓ひ会議

(2) 第二段：大倭日高見国内の天津罪と国津罪の種類と大祓

(3) 第三段：大倭日高見国は大祓の結果どうなったか

5.16.4 誰が「しろし召し」誰が「聞こし召す」のか

5.17 紫式部の超越論『源氏物語』

5.18 「蟲めづる姫君」はカタカナとひらかなを如何に使ひ分けてゐるか

5.19 ダイダラボッチと巨人伝説：大倭日高見国と播磨国：房総半島と瀬戸内海の交流の歴史

5.20 日本人はどこから来たか

青字は既論の章、赤字
は今回論ずる章、黒字
はこれから論じる章

II Topologyで縄文土器を読み解く

0. 縄文土器の概念と分類

1. 紋様とは何か。目とは何か

2. 縄文土器の構成要素

3. 縄紋は縄目と渦巻き紋様で出来てゐる

4. 縄文土器は三階層で出来てゐる

5. 縄文土器には開口土器と閉口土器の二種類がある

6. 縄文土器は私たちの宇宙観を体現してゐる

7. メディア（媒体）としての縄文土器

8. 弥生式土器は二階層で出来てゐる

9. メディア（媒体）としての弥生式土器

10. 縄文土器と弥生式土器の関係（topologicalな連続性）：3（奇数）から2（偶数）へ

11. 銅鐸は7階層で出来てゐる

12. 縄文土器の政治と弥生式土器の政治：土器と政治の一体と分離：銅鐸とは何か1

13. 縄文土器の経済と弥生式土器の経済：土器と経済の一体と分離：銅鐸とは何か2

IV 21世紀の現代に縄文土器はどのやうに生きてゐるか

VII 20世紀の幕を閉ぢ、21世紀に生きるための結語

目次

5.1 6 縄文土器とは何か

5.1 6.3 「聞こし召す」前に「しろし召す」がある

(1) 第一段：高天原八百万神大祓ひ会議

(2) 第二段：大倭日高見国内の天津罪と国津罪の分類と大祓へ

(3) 第三段：大倭日高見国は大祓への結果どうなったか

5.1 6.4 誰が「しろし召し」誰が「聞こし召す」のか

5.1 6.3 「聞こし召す」前に「しろし召す」がある

(2.1) 第二段補遺

(3) 第三段：大倭日高見国は大祓への結果どうなったか

大祓へに読まれる伊豆箱根の地に、神山と云ふ山あり、また葛城山なる山もあり、此の地へ行きて山を登りまた降りて来るの間、

待て次号 日高見國の 神山に 降る瓊瓊杵（ににぎ）の 御言
（みこと）聞くまで

Topologyで日本の文化を解説する

「内なる辺境」シリーズ

(12)

扇子

岩田英哉

『縄文紀元論』で至った結論を元に、奇想天外な論を展開してみたい。

コトシロ・カタハ、猷立・縄文土器、磐座・注連縄、カタカナ・ひらかな、御陵・御堀、御城・御堀、御花・花器、御抹茶・茶器といふ関係を、そのまま扇子に適用するとどうなるか。



連載物・単発物次回以降予定一覧

- (1) 安部浅吉のエッセイ
- (2) もぐら感覚23：概念の古塔と問題下降
- (3) 存在の中での師、石川淳
- (4) 安部公房と成城高等学校（連載第8回）：成城高等学校の教授たち
- (5) 存在とは何か～安部公房をより良く理解するために～（連載第5回）：安部公房の汎神論的存在論
- (6) 安部公房文学サーカス論
- (7) リルケの『形象詩集』を読む（連載第15回）：『殉教の女たち』
- (8) 奉天の窓から日本の文化を眺める（6）：折り紙
- (9) 言葉の眼12
- (10) 安部公房の読者のための村上春樹論（下）
- (11) 安部公房と寺山修司を論ずるための素描（4）
- (12) 安部公房の作品論（作品別の論考）
- (13) 安部公房のエッセイを読む（1）
- (14) 安部公房の生け花論
- (15) 奉天の窓から葛飾北斎の絵を眺める
- (16) 安部公房の象徴学：「新象徴主義哲学」（「再帰哲学」）入門
- (17) 安部公房の論理学～冒頭共有と結末共有の論理について～
- (18) バロックとは何か～安部公房をより良くより深く理解するために～
- (19) 詩集『没我の地平』と詩集『無名詩集』～安部公房の定立した問題とは何か～*
- (20) 安部公房の詩を読む
- (21) 「問題下降」論と新象徴主義哲学
- (22) 安部公房の書簡を読む
- (23) 安部公房の食卓
- (24) 安部公房の存在の部屋とライブニッツのモナド論：窓のある部屋と窓のない部屋
- (25) 安部公房の女性の読者のための超越論
- (26) 安部公房全集未収録作品
- (27) 安部公房と本居宣長の言語機能論
- (28) 安部公房と源氏物語の物語論：仮説設定の文学
- (29) 安部公房と近松門左衛門：安部公房と浄瑠璃の道行き
- (30) 安部公房と古代の神々：伊弉册伊弉諾の神と大国主命
- (31) 安部公房と世阿弥の演技論：ニュートラルといふ概念と『花鏡』の演技論
- (32) リルケの『オルフェウスへのソネット』を読む
- (33) 言語の再帰性とは何か～安部公房をよりよく理解するために～
- (34) 安部公房のハイデッガー理解はどのやうなものか
- (35) 安部公房のニーチェ理解はどのやうなものか
- (36) 安部公房のマルクス主義理解はどのやうなものか
- (37) 『さまざまな父』論～何故父は「さまざま」なのか～
- (38) 『箱男』論II：『箱男』をtopologyで解読する
- (39) 安部公房の超越論で禅の公案集『無門関』を解く
- (40) 語学が苦手だと自称し公言する安部公房が何故わざわざ翻訳したのか？：『写真屋と哲学者』と『ダム・ウエイター』
- (41) 安部公房がリルケに学んだ「空白の論理」の日本語と日本文化上の意義について：大国主命や源氏物語の雲隠の巻または隠れるといふことについて
- (42) 安部公房の超越論
- (43) 安部公房とバロック哲学
 - ①安部公房とデカルト：cogito ergo sum
 - ②安部公房とライブニッツ：汎神論的存在論
 - ③安部公房とジャック・デリダ：郵便的 (postal) 意思疎通と差異
 - ④安部公房とジル・ドゥルーズ：褻といふ差異
 - ⑤安部公房とハラルド・ヴァインリッヒ：バロックの話法
- (44) 安部公房と高橋虫麻呂：偏奇な二人 (strangers in the night)
- (45) 安部公房とバロック文学
- (46) 安部公房の記号論：《 》 〈 〉 () [] 「 」 『 』 「……」
- (47) 安部公房とパスカル・キニャール：二十世紀のバロック小説（1）
- (48) 安部公房とロブ＝グリエ：二十世紀のバロック小説（2）

- (49) 『密会』論
- (50) 安部公房とSF/FSと房公部安：SF文学バロック論
- (51) 『方舟さくら丸』論
- (52) 『カンガルー・ノート』論（済み）
- (53) 『燃えつきた地図』と『幻想都市のトポロジー』：安部公房とロブ＝グリエ
- (54) 言語とは何か II（済み）
- (55) エピチャム語文法（初級篇）
- (56) エピチャム語文法（中級篇）
- (57) エピチャム語文法（上級篇）
- (58) 二十一世紀のバロック論
- (59) 安部公房全集全30巻読み方ガイドブック
- (60) 安部公房なりきりマニュアル（初級篇）：小説とは何か
- (61) 安部公房なりきりマニュアル（中級篇）：自分の小説を書いてみる
- (62) 安部公房なりきりマニュアル（上級篇）：安部公房級の自分の小説を書く
- (63) 安部公房とグノーシス派：天使・悪魔論～『悪魔ドゥベモウ』から『スプーン曲げの少年』まで
- (64) 詩的な、余りに詩的な：安部公房と芥川龍之介の共有する小説観（済み）
- (65) 安部公房の/と音楽：奉天の音楽会
- (66) 『方舟さくら丸』の図像学（イコノロジー）
- (67) 言語貨幣論：汎神論的存在論からみた貨幣の本質：貨幣とは何か？
- (68) 言語経済形態論：汎神論的存在論からみた経済の本質：経済とは何か？
- (69) 言語政治形態論：汎神論的存在論からみた政治の本質：政治とは何か？
- (70) Topologyで神道を読む（1）：祓詞と祝詞と結界のtopology
- (71) Topologyで神道を読む（2）：結び・畳み・包みのtopology

[シャーマン安部公房の神道講座：topologyで読み解く日本人の世界観]

- (71) 超越論と神道（1）：言語と言霊
- (72) 超越論と神道（2）：現存在（ダーザイン）と中今（なかいま）
- (73) 超越論と神道（3）：topologyと産霊（むすひ）または結び
- (74) 超越論と神道（4）：ニュートラルと御祓ひ（をはらひ）
- (75) 超越論と神道（5）：呪文と祓ひ・鎮魂
- (76) 超越論と神道（6）：存在（ザイン）と御成り
- (77) 超越論と神道（7）：案内人と審神者（さには）
- (78) 超越論と神道（8）：時間の断層と分け御霊（わけみたま）
- (79) 超越論と神道（9）：中臣神道の祓詞（はらひことば）をtopologyで読み解く：
古神道の世界観
- (80) 三島由紀夫の世界観と古神道・神道の世界観の類似と同一
- (81) 安部公房の世界観と古神道・神道の世界観の類似と同一
- (82) 『夢野乃鹿』論：三島由紀夫の「転身」と安部公房の「転身」
- (83) バロック小説としての『S・カルマ氏の犯罪』
- (84) 安部公房とチョムスキー
- (85) 三島由紀夫のドイツ文学講座
- (86) 安部公房のドイツ文学講座
- (87) 三島由紀夫のドイツ哲学講座
- (88) 安部公房のドイツ哲学講座
- (89) 火星人特派員日本見聞録
- (90) 超越論（汎神論的存在論）で縄文時代を読み解く
- (91) 「『使者』vs.『人間そっくり』」論

- 巻頭詩（11）：自分の感受性ぐらい：茨木のり子：有名な詩ですから、詩の好きな人はご存知かもしれません。
- 『周辺飛行』論（34）：3。『周辺飛行』について（21）：「友達」の稽古に入っ
て——周辺飛行31：安部公房の此の戯曲はやはり傑作。今も生きてゐます。しかし、
この安部公房の論理をどこまで知って舞台演出がなされ、役者たちは演技者足り得てゐ
るものか。さう云ふ舞台になつてゐない舞台は見たくない。とさう、ある上演の動画を見
て、つい思つてしまひました。早廻しで最後の「明日の新聞」を家長の読み上げると
ころで、舞台の本物偽物が判りますので、そこをみようとしても、このシーンは勝手に削
られてゐた。これは改竄ではないか。
- 二十一世紀の日本文学のためのスケッチ・ブック（5）：塔の文学：4。安部公房の
塔と埴谷雄高の塔：やはり、安部公房の発見者、埴谷雄高に言及すべきだと思ひまし
た。共産主義に身を投じた人間達が戦前・戦後の歴史を一つにまとめて思弁の世界で双
肩に担つてゐたとは、これを歴史の皮肉といはむや。かくなれば、安部公房を理解する
（三島由紀夫ではなく）保守人間、埴谷雄高の『死霊』を好む保守人間は信頼するに足
る日本人だと云ふことになります。ところで、そんな保守人間がゐるのだらうか？
- サンチョ・パンサを求めて（11）：エリアス・カネッティ：私の知る限りのカネッ
ティを書きました。『群衆と権力』は、この編集後記を書いてゐる今も座右にあります。
もし読み耽つて次号を出し忘れたら、平に御容赦願ひたい。
- 糞尿と性愛の文学～生殖器・排泄器同一社会論仮説～（1）：かねてより いつかは
書くと知りながら 遂に来たるか筆下ろしの日
- ネット・メディア論（12）：7。政治形態と自由：書きながら、この問題について
は既に回答済みだと思ひましたが、更にメディア視点で再論再々論したい。
- 縄文紀元論：Topologyで日本人を読み解く（12）：5.16.3「聞こし召す」前に
「しろし召す」がある/（3）第三段：大倭日高見国は大祓の結果どうなつたか：段々と
話の規模がお大きくなつてきたので、今しばしの時間を与へ給へ、待て次号
- Topologyで日本の文化を解説する「内なる辺境」シリーズ（12）：これもまた、待
て次号まで 幾たびぞ 辺境に吠ゆ 狼少年

差出人：

廣安部公房

〒182-0003東京都調布

市若葉町「閉ざされた無

限」

次号の原稿締切は超越論的にありません。いつ
でもご寄稿をお待ちしています。

次号の予告

超越論的に、白紙である。

【もぐら通信の収蔵機関】

国立国会図書館、コロンビア大学東アジア図書館、「何處にも無い図書館」

【もぐら通信の編集方針】

1. もぐら通信は、安部公房ファンの参集と交歓の場を提供し、その手助けや下働きをすることを通して、そこに喜びを見出すものです。
2. もぐら通信は、安部公房という人間とその思想及びその作品の意義と価値を広く知ってもらうように努め、その共有を喜びとするものです。
3. もぐら通信は、安部公房に関する新しい知見の発見に努め、それを広く紹介し、その共有を喜びとするものです。
4. 編集子自身が楽しんで、遊び心を以て、もぐら通信の編集及び発行を行うものです。

